



OPEN:12:00~19:30 年中無休 (年末年始を除く)

OPEN:12:00~19:30 年中無休 (年末年始を除く)

〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7

TEL.03-5818-1123 FAX.03-5818-1124

E-mail : chicago@regimentals.jp

シカゴブログ連載中!! <http://regimentals.jugem.jp>

モバイルブログは右のQRコードからアクセスして下さい。

東京上野本店一階に古式焼専門店 The Chicago *Gallery* もございます。



OPEN: 12:00~20:00 年中無休 (年末年始を除く)

〒541-0048 大阪府中央区瓦町1-5-14

TEL 06-6223-9070 FAX 06-6223-9071

www.regimentals.jp

本ウェブサイト及び本ウェブサイトに記載の商品画像の著作権は、商品販売者（当シカゴコレクション）に帰属します。私的かつ非営利目的で使用する場合は、その他著作権法により認められる場合を除き、事前に当シカゴコレクションの許可を受けず、複製、公衆送信、改題、改題、本ウェブサイトのウェブサイトに本ウェブサイトへの複製等の行為は著作権法により禁止されています。

Copyright © Chicago Recruitments Co., Ltd. All Rights Reserved

定價 300円(税込)

Gazette Vol.20
The Annual Booklet for Deactivated Weapons and Ammunition



Carl Gustaf

84 mm Recoilless Rifle

Chicago *Regimentals* Co., Ltd.

株式会社 シカゴレジメンタルズ

Deactivated Weapons, *Armes neutralisées*, Déballastements, *Armes neutralisées*, *Gazette* Vol. 20

Table of Contents - 目次

AR-15 Rifle Variations	Page 03-04
Mossberg Shotgun Variations	Page 05-06
The History of Rifles-Carcano	Page 07-08
Howa M1500 Rifle	Page 09
Winchester Model 70 Rifle	Page 10
Remington Model 700 Rifle	Page 11
Weatherby Mark V Rifle	Page 12
FN SPR A1 Rifle	Page 13
ArmaLite AR-7 Explorer Pilot Survival Rifle	Page 14
Calico M100 Carbine	Page 15
Calico Liberty 1 Carbine	Page 16
Martin Model 1895 SBL Rifle	Page 17
Kel-Tec SUB2000 Carbine	Page 18
M16A1 Assault Rifle	Page 19
M16A1 Assault Rifle (Model 613)	Page 20
M16A1 Carbine (Model 653)	Page 21
Colt M4 Carbine	Page 22
Colt M4 Carbine, Semi-automatic Model	Page 23
Bushmaster XM15-E2S Carbine	Page 24
Smith & Wesson M&P15 Semi-automatic Rifle	Page 25
FN 15 Semi-automatic Rifle	Page 26
Troy Defense 5.56 Semi-automatic Carbine	Page 27
Daniel Defense M4 Carbine	Page 28
DPMS Panther Arms LR-308 Self-loading Rifle	Page 29
Springfield Armory M6 Scout Rifle	Page 30
Harris Gun Works M96 Sniper Rifle	Page 31
M60 Machinegun	Page 32
Remington Model 11 Shotgun	Page 33
Remington Model 870 Wingmaster Shotgun	Page 34
Remington Model 11-87 Shotgun	Page 35
Winchester Model 1200 Defender Shotgun	Page 36
Stevens Model 520 Shotgun	Page 37
Stevens Model 77F Shotgun	Page 38
Mossberg Model 500 Shotgun	Page 39
Mossberg Model 500 Bulpup Shotgun	Page 40
Mossberg Model 590 Shockwave	Page 41
Mossberg Model 590A1 Shotgun	Page 42
High Standard K 1200 Model 8111 Riot Shotgun	Page 43
High Standard Model 10B Police Shotgun	Page 44
Smith & Wesson Model 916A Shotgun	Page 45
FN Tactical Police Shotgun	Page 46
Kel-Tec KSG Shotgun	Page 47
Kel-Tec KS7 Shotgun	Page 48
M79 Grenade Launcher	Page 49
M203 Grenade Launcher	Page 50
Mk19 Mod.3 Automatic Grenade Launcher	Page 51
M18A1 57mm Recoilless Rifle	Page 52
HK SL8-6 Self-loading Rifle	Page 53

Mnuser SP66 Sniper Rifle	Page 54
Gew.3 SG/1 Sniper Rifle	Page 55
HK PSG1 Sniper Rifle	Page 56
MP5A2 Sub Machinegun	Page 57
MP5KA1 Sub Machinegun w/ Special Case	Page 58
Carcano M1891 Carbine	Page 59
Carcano M1891/24 Short Rifle	Page 60
Carcano M1891 Tsm Short Rifle	Page 61
Carcano M1891/38 TS Short Rifle	Page 62
ALGLMEC. AGM1 Carbine	Page 63
Beretta CX4 Storm Carbine	Page 64
SITES Spectre HC Sub Machinegun	Page 65
Luigi Franchi LAW 12 Shotgun	Page 66
Benelli M3 Super 90 Shotgun	Page 67
Steyr TMP Sub Machinegun	Page 68
SIG SG553 2 Assault Rifle	Page 69
Carl Gustaf 84mm Recoilless Rifle	Page 70
Valmet M71/S Self-loading Rifle	Page 71
Valmet M82 Bullpup Assault Rifle	Page 72
Suomi M31 Sub Machinegun, Late Type	Page 73
SAIGA TR 3 Self-loading Rifle	Page 74
KO VSS-01M Sniper Rifle	Page 75
SAIGA-9 EXP Carbine	Page 76
KK-MPI-69 Small Caliber Training Rifle	Page 77
Vz.26 Sub Machinegun	Page 78
Skorpion Vz.61 Sub Machinegun	Page 79
Vz.61 Accessories	Page 80
Australian FAL L2A1 Squad Automatic Weapon	Page 81
UZI Pro Sub Machinegun	Page 82
The Gunt6	Page 83-86
American Single Shot Percussion Pistol	Page 87
Double Barrel Percussion Pistol by Allen & Wheelock	Page 88
Bar Hammer Pepperbox by The Washington Arms Co.	Page 89
French Percussion Side-by-Side Pistol	Page 90
English Bar Hammer Pepperbox	Page 91
Benjamin-Adams M1856 Double Action Revolver	Page 92
Tranler Single Trigger Double Action Revolver	Page 93
Enfield Pattern 1860 2 Band Rifle	Page 94
Japanese Matchlock Musket, AWA Style	Page 95
Japanese Large-caliber Matchlock Gun	Page 96
Magazine Publication	Page 97-98
Chicago Channel	Page 99-100
Event Information	Page 101-102
無可動実銃/古式銃砲について	Page 103
Gazette Bookmark	Page 104
買取り/下取りのご案内-ご来店/通信販売をご利用のお客様へ	Page 105-106
古式銃の買取り、下取りについての流れ	Page 107
買取り/下取り保証のお知らせ	Page 108

Colt AR-15 and M16 Rifle Variations

COLT AR-15

コルト AR-15

ユージン・ストーナーが設計し、1962年に米空軍が採用したM16(AR-15)は、M16A1やM16A2等の改良型を経てM4カーブンの開発に繋がりました。



M16A1 自動小銃



詳細は P.19 へ

M16A1 自動小銃 (モデル613)



詳細は P.20 へ

M16A1 w/ M203 グレナード・ランチャー



詳細は P.50 へ

M16A1 カービン (モデル653)



詳細は P.21 へ

M4 カービン



詳細は P.22 へ

M4 カービン (セミ・オートマチック・モデル)



詳細は P.23 へ

画像の筐体にはメキシコ国家防衛省(S.D.N.)の刻印が入っています。

S.D.N. MEXICO D.F.

Other AR-15 style Rifle Variations

AR-15 Clone

AR-15 クローン

AR-15スタイルの自動小銃は、現在ではコルト社以外の様々なメーカーからも発売されており、ハンドガードやストック、アクセサリ・プラットフォームの機能などメーカーごとの様々な特徴を生み出しています。

FN 15 自動小銃



詳細は P.26 へ

SIG M400 自動小銃



画像の筐体にはMAGPUL製のハンドガードやグリップストックが取り付けられています。

ブッシュマスター XM15-E2S 自動小銃



詳細は P.24 へ

スミス&ウェッソン M&P15 自動小銃



詳細は P.25 へ

ダニエル・ディフェンス M4 カービン



詳細は P.28 へ

トロイ・ディフェンス 5.56 カービン



詳細は P.27 へ

MOSSBERG

モスバーグ

モスバーグ社はスウェーデン移民のオスカー・フレデリック・モスバーグ(1866-1937)により1919年に創業された銃器メーカーです。



Maverick 88

マーベリック88の外観はM500に類似していますが、米国外で製造された部品を使用した廉価なモデルとなっています。



■ マーベリック 88 ショットガン (固定ストック)



M500とトリガー・グループの互換性は無いものの、銃身やストック、マガジン・チューブといった多くの部品で互換性があります。画像の銃体は黒色樹脂製の固定ストックと18.5インチの銃身を備えたモデルです。

■ マーベリック 88 ショットガン (樹脂製/金属製グリップ)



M500のセーフティは本体上面後部に設けられているのに対し、マーベリック88はトリガー・ガードにセーフティを備えています。画像の銃体はヒストルグリップ付きのモデルです。

M500 Law Enforcement

M500は部品点数を減らして容易に分解できるようにする事で、整備性や信頼性の向上を実現し、軍・法執行機関により多数採用されています。

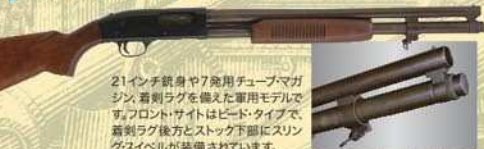
■ M500 ATP ショットガン (カナダ・ケベック警察刻印)



詳細は P.39へ

カナダ・ケベック警察により使用されている銃体で、本体上部に折り畳み可能なストックを備えています。

■ M500 ATP ショットガン



21インチ銃身や7発用チューブ・マガジン、着脱ラグを備えた軍用モデルです。フロント・サイトはビード・タイプで、着脱ラグ後方とストック下部にスリング・スタベルが装備されています。

M500

M500にはブルバップ仕様やチェーンソーと呼ばれる特殊なモデルなど、非常に多くのバリエーションが存在します。

■ M500 ブルバップ ショットガン



詳細は P.40へ

M500の機関部をグリップ一体型の樹脂製ストックにブルバップ・レイアウトで収めたモデルです。

■ M500 ショットガン (チェーンソー)



フォア・エンドにチェーンソー型のグリップを追加し、種だめの射撃を容易にしたモデルです。トップ・ハンドル部分は取り外しも可能となっており、フォア・エンドにはアクセサリー・レールも備えています。

M590

M500をベースに軍・法執行機関向けとして開発されたモデルで、M500の基本設計を受け継ぎながらも耐久性や信頼性の向上が図られています。

■ M590A1 ショットガン



米軍の規格をクリアするために開発されたM590の発展型で、耐久性が更に強化され、ヘビー・バレルを備えています。

詳細は P.42へ

■ M590M ショットガン



M590をベースに着脱式のマガジンに対応したモデルで、5/10/15/20連のマガジンが用意されています。マガジンは2.75インチ装弾のみに対応しています。

■ M590 ショックウェーブ



14インチの短銃身でありながら、特殊なグリップ形状から米国の民間向けに一般販売されているモデルです。

詳細は P.41へ

The History of Rifles Carcano

カルカノ小銃はサルヴァトーレ・カルカノ技師によって開発された、イタリア軍初の無煙火薬を使用する制式小銃です。



M1891 騎兵銃

第一次世界大戦時の主力騎兵銃で、背負った際に他の銃具に引っ掛からないよう、ボルト・ハンドルが折り曲げられています。

詳細は P.59 へ

M1891/24 短小銃

M1891 歩兵銃をベースに短小銃に改修されたモデルで、歩兵銃のリア・サイト部品を改造して流用しています。

詳細は P.60 へ

M1891 TSm 短小銃

基本的な仕様はM1891/24 短小銃と同様ですが、リア・サイトが短小銃専用の短いタイプへと変更されています。

詳細は P.61 へ

M1891/38 TS 短小銃

砲兵や工兵、輜重兵向けの固定式リア・サイトを備えた短小銃で、海軍部隊や民兵組織等にも供給されました。

詳細は P.62 へ

1861

3月 イタリア王国成立

M1891 騎兵銃

第一次エチオピア戦争
イタリア軍敗北



1894-96

1911-12

1915

1918

伊土戦争

イタリア王国によるリビア獲得

イタリアが連合国（協商国）側として
第一次世界大戦に参戦

第一次世界大戦終結

イタリアは戦勝国としてトリエステ、
南チロル、イストリア半島を獲得



M1891/24 短小銃

1925

ベニート・ムッソリーニが
独裁体制を確立

M1891 TSm 短小銃



1935-36

第二次エチオピア戦争

イタリア王国によるエチオピア帝国併合

1937

日独伊防共協定結成

12月 イタリアが国際連盟脱退



M1891/38 TS 短小銃

1939

4月 イタリア王国によるアルバニア併合

1940

9月 第二次世界大戦勃発

イタリアがイギリス、
フランスに宣戦布告

1943

7月 ムッソリーニが解任・拘束

9月 幽閉中のムッソリーニがドイツ軍により救出
イタリア社会共和国樹立

1944

6月 連合軍によるローマ解放

1945

4月 イタリア社会共和国崩壊

1946

6月 イタリア共和国成立



Howa M1500
RifleHowa M1500 Rifle
豊和 M1500
ライフル全長 1,025mm
口径 7.62mm×51
装弾数 10発

豊和工業が豊和ゴールデンベアの後継として1979年に発売したモデルで、設計に当たり同社がOEM生産していたウェザビー・マークVが参考にされました。ボル・アクション機構は開閉角90度のコックオン・オープン式で、トリガー・システムは2ステージトリガーを採用しており、2011年にはHACT (Howa Actuator Controlled Trigger) と呼ばれるトリガー・システムが導入されました。使用弾薬に応じてショート・アクション及びロング・アクションが存在する他、2015年には7.62mm×39及び6.5mm グレンデル弾向けにミニ・アクションが導入されました。本銃は日本警察が狙撃銃として採用している事でも知られています。



本銃体にはライバー・コーティングが施された銃床が純正装備されており、グリップ下面には「Howa」のロゴが入っています。

Winchester Model 70
RifleWinchester
Model 70 Rifle
ウィンチェスター
M70 ライフル全長 1,080mm
口径 30-06
装弾数 4発

.270 Win弾用に関係されたウィンチェスター M54に改良を加えて大型化し、各種口径に対応可能としたモデルです。1936年に発売され、口径や銃床のグレードが異なる様々なバリエーションが存在します。M70は1964年以前に製造されたPre-64と呼ばれるモデルとそれ以降に製造されたPost-64に大別が可能です。Post-64では製造コストを抑える為の改良が各部に見られ、エキストラクターがクロウ・タイプからボル・ヘッド内蔵式に変更された他、レシーバーは削り出し製からクロムモリブデン鋼の鍛造製に変更されました。また、ボルと一体構造の削り出しで製作されていたボル・ハンドルは、インベストメント鋳造製でボルトに口付けされる構造になりました。



本銃体はPre-64モデルのM70 フェザーウェイトで、口径は30-06となっています。

写真の銃はすべて所有銃数です。

Remington Model 700 Rifle

Remington
Model 700 Rifle
レミントン
M700 ライフル



全長 1,162mm
口径 7.62mm×67
(.300 Win Mag)
装弾数 4発



Weatherby Mark V Rifle

Weatherby
Mark V Rifle
ウェザビー
マークV ライフル



全長 1,180mm
口径 .460 WBY MAG
装弾数 2発



1962年から現在まで生産されているロングセラーのボルト・アクション・ライフルで、口径や銃床といった各部の仕様の違いにより様々なバリエーションが存在します。装弾数は口径により異なり、本体下部にマガジン・フロア・プレートが付いたモデルとフロア・プレートの無いモデルが存在する他、着脱式のマガジンを装備したモデルも製造されています。レミントン M700には民間向けモデルの他、軍や警察向けに製造されたモデルも存在し、ベトナム戦争では M700 をベースとした狙撃銃である M40 が米海兵隊により使用されました。また、米陸軍では M700 を基にした M24 SWS と呼ばれる狙撃システムを採用し、日本の陸上自衛隊でも対人狙撃銃として採用されています。



本側面は .300 Win Mag 弾仕様で、26 インチのヘビー・ウェイトとグリップ部に施されるウエー・コーティングが施された樹脂製銃床を備えています。

米国ワイオミング州シェリダンに拠点を置くウェザビー社 (Weatherby, Inc.) が 1957 年に発表したボルト・アクション・ライフルです。各種 マグナム弾薬に対応するモデルでは、それらが生み出す高い圧力を安全に受け止められるように設計されており、ボルトには 3 列に配置された 9 箇所のロッキングラグを備えています。また、方の破裂時に高温の発射ガスを安全に側面に向けて排気するための穴がボルトに設けられている他、ボルト機構を通じて射手の顔に高温のガスが吹き付ける事を防ぐため、ボルト・スリーブもシャroud内に収められた構造となっています。本品はウェザビーの弾薬ラインナップとしては最も強力な .460 ウェザビー・マグナム弾仕様です。



ボルト・スリーブの右側面にはセーフティ・レバーが設けられ、セーフティを持ち上げると赤いドットが見える状態で発射可能となります。

写真の銃はすべて無効銃数です。

FN SPR A1 Rifle

FN SPR A1 Rifle
FN SPR A1
ライフル



全長 1,120mm
口径 7.62mm×51
装弾数 4発

ArmaLite AR-7 Explorer Pilot Survival Rifle

ArmaLite AR-7 Explorer
Pilot Survival Rifle
アーマライト AR-7
エクスプローラー 自動小銃
(イスラエル軍用
パイロット・サバイバル・ライフル)



全長 820mm
(630mm)
口径 22LR
装弾数 8発



FN SPR (スペシャル・ボリス・ライフル) は、ベルギーのFNハースタルの米国子会社であるFNH USAが法執行機関向けに開発したボルト・アクション・ライフルです。基本構造はウィンチェスター M70 ライフル (Pre-64モデル) を基にしており、コントロール・フィード式のボルトと大型のエキストラクターを備えています。SPR A1は、308 Win弾を使用し、24インチのノンフル・テッド・バレルを備えたバリエーションです。弾倉は着脱式のボックス・マガジンで、レシーバー上部にはピカティニー・レールを備えています。マット・ブラックのマクミラン製ファイバー・グラス・タクトイカル・ストックは、各部の調整機能がないタイプとなっています。

— FN HERSTAL SPECIAL POLICE RIFLE 308 WIN —

銃身左側面には「FN HERSTAL SPECIAL POLICE RIFLE 308 WIN」のモデル名及び口径表示刻印が入っています。

AR-7は米国のアーマライト (ArmaLite) 社が開発した航空機搭乗用サバイバル・ライフルAR-5Aを改良して市販した自動小銃です。非常にシンプルかつ軽量の構造により極めて簡単に分解が可能で、サバイバル・ガンという概念を世に広めた銃でもあります。また、22LR弾という扱いやすい口径から、様々なバリエーションも製造されました。本品はアーマライト社製オリジナルのAR-7 エクスプローラー自動小銃をベースに、イスラエル軍がパイロット向けのサバイバル・ライフルとして改造を加えたモデルです。伸縮式のワイヤー・ストックとFN FAL自動小銃から流用したピストル・グリップを備えており、銃身にはスリング・スイベルが追加されています。



グリップ底部のゴム製カバーを取り外すと、内部にコンバートメントが設けられています。

写真はすべて無装弾状態です。

Calico M100 Carbine



Calico M100 Carbine
キャリコ M100 カービン



全長 905mm
(750mm)
口径 22LR
装弾数 50/100発

Calico Liberty I Carbine



Calico Liberty I Carbine
キャリコ リバティ I カービン



全長 940mm
(788mm)
口径 9mm×19
装弾数 50/100発

米国のキャリコ・ライト・ウェポンズ社 (Calico Light Weapons Inc.) が製造した、本体上部にヘリカル・マガジンと呼ばれる特殊な多弾数の弾倉を備えた自動小銃です。全体的にプラスチックを多用し、SF映画に登場するような特殊なデザインとなっています。M100の使用弾薬は、22LRで、ブローバック方式により作動します。元々は軍や警察での採用も想定して開発されましたが、特殊なマガジン構造のため信頼性が低く、軍・警察へのセールスは振るいませんでした。民間市場向けの販売についても、1994年に米国でマガジンの装弾数を10発以下に規制する法律が施行されたことから、多弾数であるという最大の長所を活かす事が出来ず、大きな打撃を受けました。



マガジン・キャッチは本体前面に設けられており、左右から同時に押し込む事でマガジンの取り外しが可能となります。

キャリコ社が製造したモデルには、22LR弾または9mm×19弾を使用する二種類のモデルが存在します。作動方式については、22口径モデルではシンプルなブローバック方式であるのに対し、9mm口径モデルはドイツのGew. 3自動小銃のようなローラー遅延ブローバック方式を採用しています。また、22口径モデルでは排莖孔がレシーバー右側に設けられていますが、9mm口径モデルではトリガー・ガード前方の本体下部に排莖孔が設けられている点が異なります。その他、全長やストック形状の異なるバリエーションが各種製造されました。9mm×19弾仕様のモデルには当初M900のシリーズ名が与えられていましたが、後にリバティ・シリーズへと改称されました。



マガジンに弾薬を装填した後、後端のウィンドウを回す事により、内部のスプリングが巻かれて給弾可能となります。

写真はすべて作者の撮影です。

Marlin Model 1895 SBL Rifle

Kel-Tec SUB2000 Carbine



Marlin Model 1895 SBL Rifle
マーリン M1895 SBL ライフル



全長 930mm
口径 .45-70 Gov't.
装弾数 6発

米国スターム・ルガー社傘下のマーリン・ファイアアームズ社 (Marlin Firearms Co.) が製造するレバー・アクション・ライフルで、スプリングフィールド M1873 トラップドア・ライフル用として開発された .45-70 Gov't. 弾を使用します。本体や銃身はステンレス・スチール製で、大型のルーフ・フィンガー・レバーを装備しています。銃身長は18.5インチで、銃身下部には6発装填可能なチューブ・マガジンを備えています。ハンドガード及びストックは黒/灰色系のラミネート製となっており、肩当部にはリコイル・パッドが装備されています。本体上部にはピカチニー・レール及びゴースト・リング・タイプのリア・サイトが装備されています。



本銃体はマーリン社がレミントン社下であった時期に製造されたため、ニューヨーク州イリコンのアドレス刻印が入っています。



Kel-Tec SUB2000 Carbine
Kel-Tec SUB2000 カービン



全長 745mm
口径 9mm×19
装弾数 10/15/17発

米国の Kel-Tec CNC インダストリーズ社が製造する半自動小銃で、9mm×19弾または .40S&W弾に対応した2種類のバージョンが存在します。ブローバック方式により作動し、ボルトやリコイル・スプリングはストック・チューブ内に配置されています。コッキング・ハンドルはストック・チューブ下部に設けられており、後方に引いた状態で反時計回りに回転させると後退位置でロックされます。レシーバーは衝撃に強いガラス繊維強化ナイロン製で、トリガー・ガードを下方に引く事により、リア・サイトを内蔵したピンジを介して、レール・アッセンブリーを本体上方に回転させて折り畳めるのが特徴です。尚、折り畳んだ状態では、銃を発射する事は出来なくなっています。



コッキング・ハンドルはストック・チューブ下部に設けられています。

M16A1 Assault Rifle

M16A1
Assault Rifle
M16A1 自動小銃



全長 990mm
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発



M16A1 Assault Rifle (Model 613)

M16A1
Assault Rifle
(Model 613)
M16A1 自動小銃
(モデル 613)



全長 990mm
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発



米国アーマイト社のユージン・ストーナーが設計し、コルト社が製造を行って1962年に米空軍が採用したM16(コルト社内モデル名AR-15・M601)の改良型です。AR-15は陸軍でも採用が検討され、M601に改良を加えた仮制式モデルであるXM16E1(陸軍向けM602)が1965年からベトナム戦争に投入されました。ベトナムでの実戦経験を踏まえてXM16E1には部分改良が加えられ、1967年2月にM16A1の陸軍制式名が与えられて採用されました。M16A1(M603)はXM16E1と同様にボルト・フォワード・アシストを備えており、改良点としてマガジン・リリース・ボタンの誤操作を防ぐ為のリップの形状やバード・ゲージ型のフラッシュ・サプレッサー、ボルト・フォワード・アシストノブ等はM16A1と同等です。マガジン・ハウジング左側面のモデル名刻印は、「COLT M16A1」ではなく、「COLT AR-15」のモデル名と「MOD.613」のコルト社内モデル名を組み合わせたものとなっています。



本例体では「COLT M16A1」のモデル名刻印の「A1」部分が追加で打刻されています。

M16A1自動小銃は輸出向けとしてもコルト社により大量に生産され、これらの輸出向けM16A1にはAR-15 M613のコルト社内モデル名が与えられました。AR-15 M613の各部の仕様は米陸軍向けのM16A1(コルト社内モデル名:AR-15 M603)に準じたものとなっており、マガジン・リリース・ボタンの誤操作を防ぐ為のリップの形状やバード・ゲージ型のフラッシュ・サプレッサー、ボルト・フォワード・アシストノブ等はM16A1と同等です。マガジン・ハウジング左側面のモデル名刻印は、「COLT M16A1」ではなく、「COLT AR-15」のモデル名と「MOD.613」のコルト社内モデル名を組み合わせたものとなっています。



マガジン・ハウジング左側面にはコルト社のロゴに加えて、「COLT AR-15」や「MOD.613 CAL. 5.56 MM.」のモデル名刻印が入っています。

写真の銃はすべて無罪返還致す。

M16A1 Carbine (Model 653)



M16A1 Carbine (Model 653)
M16A1 カービン (モデル653)



全長 848mm
(765mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発

1970年代初頭から開発が進められた、M16A1自動小銃をベースとしたカービンモデルの一種で、銃身を14.5インチまで短縮し、伸縮式のストックが取り付けられています。M4カービンは登場以前に製造された本品のようなM16ベースのカービンモデルは「CAR-15」と総称されます。

M16A1カービン(コルト社内モデル名 M653)はボルト・フォワード・アシストを備えるM16A1タイプのレシーバーをベースに、2ポジションの伸縮式ストックやXM177と同様の短い円筒型ハンドガードを備えています。同時期に開発されたM16A1カービンとしては他にM651、M652、M654が存在しますが、米軍によりまったく拒否が調達されたのはM653のみでした。



2ポジションの伸縮式ストックはピニールコーティングが施されたアルミ合金製です。

Colt M4 Carbine



Colt M4 Carbine
コルト M4 カービン



全長 855mm
(773mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発

1982年に米国防政府はコルト社にM16A2(当時の名称はM16A1E1)をベースとしたカービンモデルの開発を要請し、米陸軍はXM177E2を基に使用弾薬をM855(SS109)弾へ変更したモデルをXM4として再指定しました。

XM4は1983年にテストされ、外装部品やラインフリンギングピッチが変更された他、M16A2との部品共有率を高める事や銃身長の14.5インチへの変更も提案されました。1987年には開発が完了し、海兵隊により「Carbine, 5.56mm, M4」として制式化されました。1993年には陸軍もM4カービンの発注契約を結び、翌年には3点バースト射撃機能をフル・オートマチック射撃に変更したM4A1の発注も行われました。



本個体はフル・オートマチック射撃機能を備えたモデルで、セレクトカー表示は「SAFE SEMI-AUTO」となっています。

写真の銃はすべて無作為に撮影されたものです。

Colt M4 Carbine Semi-automatic Model



Colt M4 Carbine, Semi-automatic Model
コルト M4 カービン(セミオートマチック・モデル)



全長 910mm
(830mm)
口径 5.56mm×45
発弾数 20/30発

コルト社では民間用や法執行機関向けとして射撃機能をセミオートマチックに限定したM4カービンを製造しています。セミオートマチック射撃機能のみのため、セレクトー表示は「SAFE-FIRE」となっています。米国内の規制に適合するため、民間向けモデルの銃身長はオリジナルの14.5インチよりも長い16インチとなっています。また、モデルにより着剣装置の有無やM203 グレナード・ランチャー取り付け用の銃身の段差の有無など、仕様の異なるバリエーションが存在します。マガジン・ハウジング側面のモデル名刻印についても、「M4 CARBINE CAL. 5.56MM」の他、「CARBINE CAL. 5.56MM」といった異なる表記が見られます。



本個体は16インチ銃身と着剣装置、M203 グレナード・ランチャー取り付け用の銃身の段差を備えています。

Bushmaster XM15-E2S Carbine



Bushmaster XM15-E2S Carbine
ブッシュマスター XM15-E2S カービン



全長 880mm
(785mm)
口径 5.56mm×45
発弾数 20/30発

米国のブッシュマスター・ファイアーアームズ・インターナショナル社が製造したAR-15スタイルの自動小銃です。民間向けモデルには、16インチ銃身のE2S Shortyと呼ばれるカービン・モデルや20インチ銃身のターゲット・モデル、M16タイプのハンドガードとフロント・サイト・ベースを兼ねたタミー・ガス・ブロックを備えたE2S Dissipator、7インチもしくは10.5インチ銃身とフリー・フローティング構造のハンドガードを備えつつストックを廃したバトリールマン、フラット・トップ・レシーバーのQRC(ORC)など、バリエーションが多数存在します。画像の個体は14.5インチ銃身とセレクトー・ファイア機能を備えた軍・法執行機関向けモデルです。

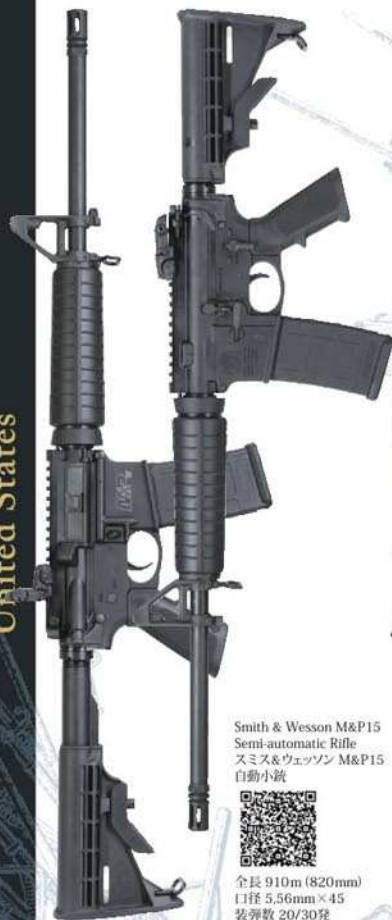


マガジン・ハウジングの側面にはブッシュマスター社のロゴに加えて、「CAL. 223 5.56MM」の口径表示や「MOD. XM15-E2S」のモデル名刻印が入っています。

写真の写しはすべて無断複製禁止です。

Smith & Wesson M&P15 Semi-automatic Rifle

FN 15 Semi-automatic Rifle



Smith & Wesson M&P15
Semi-automatic Rifle
スミス&ウェッソン M&P15
自動小銃



全長 910mm (820mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発



FN 15
Semi-automatic Rifle
FN 15 自動小銃



全長 1,005mm
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発



米国スミス&ウェッソン(Smith & Wesson)社が2006年に発表した、AR-15スタイルのセミオートマチック・ライフルで、主に民間市場及び警察向け用途を想定してデザインされています。通常モデルの作動方式は原型となったAR-15と同様のダイレクト・インピンジメント方式ですが、ショート・ストロークのガス・ピストン方式としたモデルも存在します。また、口径の違いやボルト・フォワード・アシスト及びエジェクション・ポート・カバーの有無など、仕様の異なる様々なバリエーションが存在します。M&P15は発売当初こそスタック・アームズ社によるOEM生産でしたが、現在ではスミス&ウェッソン社による自社生産が行われています。



「M&P」のシリーズ名は、スミス&ウェッソン社が製造していた.381口径のミリタリー&ポリスリボルバーへのオマージュとなっています。

FN ハースタルの米国子会社であるFNH USAが生産するAR-15スタイルの自動小銃で、作動方式はオン・ドックスなダイレクト・インピンジメント方式のガス圧作動式となっています。FN 15には銃身長及びガス・システム長の違い、他、ハンドガードやストック形状の違いなどにより、FN 15 ガーディアン、FN 15 DMR3、FN 15 TAC3、FN 15 TAC3 Duty、FN 15 バトル・ローラー・カービンといったバリエーションがラインナップされています。また、その他にもオン・ドックスなM16やM4カービン・スタイルのMilitary Collector M16やMilitary Collector M4と呼ばれるモデルが存在します。



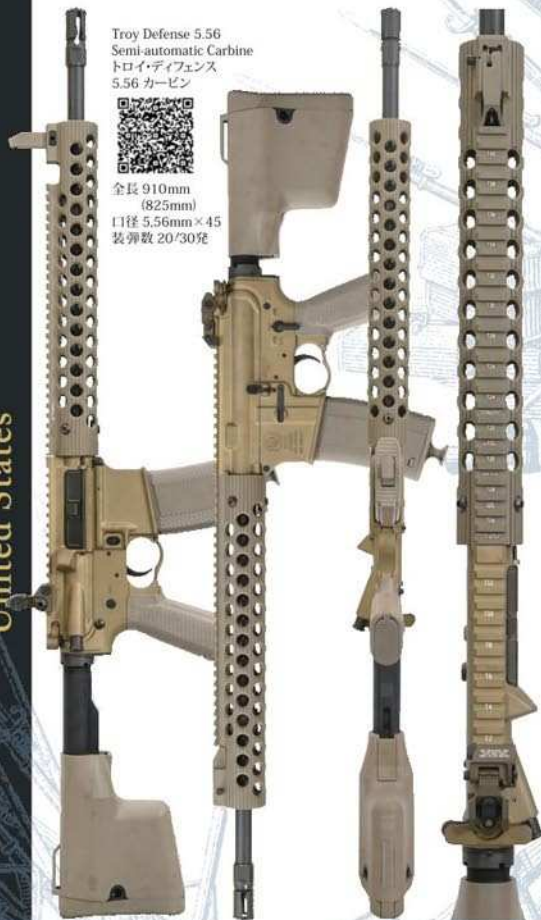
本図はセミオートマチック・モデルですが、セレクトーには「AUTO」の刻印が入っています。

Troy Defense 5.56 Semi-automatic Carbine

Troy Defense 5.56
Semi-automatic Carbine
トロイ・ディフェンス
5.56 カービン



全長 910mm
(825mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発



Daniel Defense M4 Carbine

Daniel Defense
M4 Carbine
ダニエル・ディフェンス
M4 カービン



全長 900mm
(825mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発



米国のトロイ・インダストリーズ社が製造する、5.56mm×45弾を使用するAR-15スタイルのセミ・オートマチック・ライフルです。同社は2003年にマサチューセッツ州ウェストスプリングフィールドに設立され、法執行機関や民間向けにフラッシュ・サプレッサーやモジュラー・レール・システム、フォールディング・サイト、グリップ、ストックといった小火器用アクセサリ類の開発・製造をスタートしました。同社製品はスミス&ウェッソンやスターム・ルガーといった銃器メーカーからも評価され、それらのメーカーでは自社製品にトロイ社からOEM供給された部品を取り入れています。トロイ社は2012年に小火器部門を立ち上げ、完成品の銃器の開発・製造も行っています。



マガジンハウジング右側面にはトロイ社のロゴや「TROY CARBINE CAL. 5.56 MM. DSF 008227」のモデル名が打刻されています。

米国ダニエル・ディフェンス社 (Daniel Defense, Inc) が製造したAR-15スタイルの自動小銃です。2000年代初頭にジョージア州ガーデシティに設立された同社は、当初小火器用のアクセサリ・レールの製造を手掛けており、2003年に米陸軍特殊部隊向けにM4カービン用のアクセサリ・レールを受注して以降、急成長を遂げてきました。2008年にはジョージア州ブラックリークに拠点を移し、2009年には自社製のライフルと冷間鍛造製の銃身の製造を開始しました。同社の主力製品はDDM4と呼ばれるAR-15スタイルの自動小銃で、軍・警察機関向けモデルの他、民間向けとしてセミ・オートマチック射撃機能のみに限定したモデルの販売が行われています。



マガジンハウジング右側面にはメーカー・ロゴやアドレス刻印、「M4 CARBINE CAL. MULTI」のモデル名が打刻されています。

写真の銃はすべて無効化銃器です。

DPMS Panther Arms LR-308 Self-loading Rifle



DPMS
Panther Arms
LR-308
Self-loading Rifle
DPMS
パンサー・アームズ
LR-308 自動小銃



全長 975mm
(870mm)
口径 7.62mm×51
装弾数 20発

米国のDPMS(Defense Procurement Manufacturing Services)パンサー・アームズ社が製造した、7.62mm×51弾を使用するAR-10スタイルの自動小銃です。同社は1985年にミネソタ州オセオで創業し、当初は米軍との契約に基づいてM16やM203といった銃器の部品を製造していました。LR-308の外観はAR-15系のレシーバーを使用弾薬に合わせて拡大したオーソドックスなスタイルですが、エジェクション・ポート・カバーやボルト・フォワード・アシストの有無、ストック形状の違いなどによるバリエーションが存在します。現在DPMS社では、7.62mm×51弾を使用するモデルはDP-10の名称で販売されています。



マガジンハウジング右側面にはメーカー・ロゴに加えて、CAL. 308、DPMS、2238、7.62、21112の表示及び「MOD. LR-308」のモデル名刻印が打刻されています。

Springfield Armory M6 Scout Rifle



Springfield Armory
M6 Scout Rifle
スプリングフィールド・
アーモリー
M6 スカウトライフル



全長 815mm
口径 22LR/410番
装弾数 22×1発/
410番×1発

M6ライフルは、元々米国空軍が開発した航空機搭乗員向けのサブコンパクト・ウェポンの一つで、不時着時の食料調達や野生生物からの護身用として開発されました。銃身と機関部はヒンジで固定され、ブレイク・アクションにより弾薬の装填を行いました。上下の銃身の撃ち分けは、ハンマーの打撃部を上下させる事により行い、トリガーは寒冷地で手袋を着けたまま射撃が可能なスクイズ・バー式となっていました。民間向けに製造されたM6スカウトライフルは、銃身が4.25インチ延長され、トリガー・ガードが追加されています。使用弾薬は軍用モデルと同じ.22 Hornet弾と410番の組み合わせに加え、.22LRもしくは.22マグナム弾と410番の組み合わせも製造されました。



ストック内には予備の15発の.22LR弾と4発の410番の弾薬が収納可能です。

写真の銃はすべて無効銃器数です。

Harris Gun Works M96 Sniper Rifle

Harris Gun Works
M96 Sniper Rifle
ハリスガンワークス
M96 狙撃銃



全長 1,430mm
口径 12.7mm×99
装弾数 5発



M60 Machinegun



M60 Machinegun
M60 汎用機関銃



全長 1,105mm
口径 7.62mm×51
装弾数 ベルト給弾

米国アリゾナ州フェニックスのハリスガンワークス社が軍用向けに開発した対物・対人用の.50口径半自動式狙撃銃で、1996年に発表されました。昼夜兼用の光学機器を装着する事により、最大約3,000mまでの狙撃を可能としており、バックアップ用のアイアン・サイトも備えています。本体は鋼鉄と航空機グレード・アルミニウムにより構成され、堅牢性と軽量化を両立しており、銃口部には強力な反動を軽減するため、大型のマズルブレイキが装備されています。本体上部にはキャリングハンドル兼用のスコープマウントを備えており、バット・ストックはレシーバーとの接合部で高さを3段階で調節する事が可能です。本銃は米軍やノルウェー、スウェーデン、マレーシア軍向けに製造されました。



バット・ストックは上下にスライドさせてポジションを合わせた後、側面から六角穴付ボルトにより固定します。

1957年に米軍制式となった、ベルト給弾式の汎用機関銃です。ガス圧利用のオープン・ボルト方式で射撃を行い、ベルト給弾機構は第二次世界大戦時のドイツのMG42機関銃、オペレーティング・ロッドなど作動機構はFG42自動小銃の影響を受けて開発されたと言われています。本体には当時主流となりつつあったプレス加工が用いられており、ピストンの後退と共にシンターへの発射ガスの流入を遮断するシステムが組み込まれています。銃身は交換可能ですが、銃身側に交換用のハンドルが設けられておらず、二脚も銃身側に付属しているため、耐熱手袋を使用して銃本体を支えながら銃身交換を行う必要がありました。M60はベトナム戦争では主力機関銃として各種の用途で使用されました。



写真はすべて機内撮影です。

Remington Model 11 Shotgun

Remington Model 11
Shotgun
レミントン モデル11
ショットガン



全長 1,240mm
口径 12GA
装弾数 4+1発



Remington Model 870 Wingmaster Shotgun

Remington Model 870
Wingmaster Shotgun
レミントン M870
ウィングマスター ショットガン



全長 985mm (720mm)
口径 12GA
装弾数 6+1発



米国レミントン社が製造した、ブローニング AUTO5ショットガンの派生型です。基本構造はAUTO5と同様ですが、レミントン モデル11ではマガジン・カットオフが省略されています。ジョン・M・ブローニングは1900年にAUTO5の原型となる自動式散弾銃の патент を取得し、ウィンチェスター社やレミントン社に製造権の購入を持ちかけましたが、契約には至らず、最終的にベルギーのFN社が製造権を取得して1902年からAUTO5の製造を開始しました。その後レミントン社もこの散弾銃の製造権を取得し、モデル11として1905年から製造を行い、米国で製造された最初の自動装填式散弾銃となりました。モデル11は1947年の生産終了までに85万挺が製造されました。



本個体は口径12GAのリップ付きバレル仕様で、銃身長は27インチとなっています。

レミントン M870は、1950年にM31の後継として米国レミントン・アームズ社で開発されたポンプ・アクション・ショットガンで、作動の確実性や耐久性の高さからベストセラーとなりました。M870 ウィングマスターは金属部にブルー仕上げが施され、ウォールナット材のストックとフォア・エンドを装備したモデルです。1986年以降、M870には「Rem Choke」システムと呼ばれる交換可能なチョークが装備されるようになり、12GA及び20GAモデルでは3インチの薬室が標準となりました。M870 ポリス・モデルの登場前にはM870 ウィングマスターが法執行機関等でも広く運用され、上部に折り畳み可能なフォールディングストックを備えたタイプも使用されました。



レシーバー左側面にはレミントン社のメーカー・ロゴや「MODEL 870」のモデル名に加えて、「Wingmaster」の刻印が入っています。

Remington Model 11-87 Shotgun



Remington
Model 11-87 Shotgun
レミントン モデル11-87
ショットガン



全長 985mm
口径 12GA
装弾数 7+1発

Winchester Model 1200 Defender Shotgun



Winchester Model 1200
Defender Shotgun
ウィンチェスター M1200
ディフェンダー ショットガン



全長 985mm
口径 12GA
装弾数 6+1発

レミントン モデル1100をベースに改良・強化したガス圧利用の半自動散弾銃として、1987年に発表されたモデルです。基本構造はモデル1100に類似していますが、モデル11-87では3インチ装弾の発射を想定し、より強化されています。ガス・シリンダーはマガジン・チューブ前部付近に設けられており、環状のガス・ピストンが2本のアクション・バーにより機関部と連結されています。モデル11-87には狩猟用モデルの他、法執行機関向けモデル等のバリエーションが存在します。法執行機関向けモデルは黒色バーカー仕上げで、樹脂製銃床やマガジン・エクステンション・チューブを装備し、フロントにブレード・サイト、リアにオープンもしくはゴースト・リング・サイトを備えています。



本品はマガジン・エクステンション・チューブを備え、フロントがブレード・サイト、リアがオープン・サイトとなっています。

ウィンチェスター・リベティング・アームズ社が大ベストセラーとなったM1912ショットガンの後継として1964年に発表されたポンプ・アクション式ショットガンです。M1200は既に完成されていたM1912の基本構造を引き継ぎながらも、チョーク交換が容易な「ウィン・チョーク」システムを組み込み、生産効率向上のため各部の見直しが行われました。M1200はポンプ・アクション式ショットガンのスタンダードとして、官民問わず広く普及し、米軍では当時激化していたベトナム戦争においてショットガンの必要性が高まっていたことから、着剣装置を追加したモデルが投入されました。また、警察においても頻発する暴動に対処するため、非致死性弾薬が問題なく使えるM1200が多用されました。



ベースとなったM1912と同様、トリガー・ガード前部にはクロス・ボルト式のセーフティを備えています。

写真の図はすべて無効機銃数です。

Stevens Model 520 Shotgun

Stevens
Model 520 Shotgun
スティーブンス
モデル520 ショットガン



全長 980mm
口径 12GA
装弾数 5+1発



Stevens Model 77F Shotgun

Stevens
Model 77F Shotgun
スティーブンス
モデル77F ショットガン



全長 993mm
口径 12GA
装弾数 4+1発



ジョン・M・ブローニング (John Moses Browning) が1900年代後半に設計したハンマーレスのポンプ・アクション式ショットガンで、テイク・ダウ・ン・バレルを備えています。製造はスティーブンス社により行われ、スティーブンス社が1920年にサベージに買収された後も、1939年まで製造が続けられました。尚、1929年に16GA、1930年には20GAのモデルが追加されています。モデル520の改良型としてはモデル520Aが存在し、モデル520の特徴的なレシーバー上面の段差が無くなり、セーフティがレシーバー・タンクに移されました。また、トリガー・ハウジングの形状も変更され、メイン・スプリングが板バネからコイル・スプリングへと変更されました。



トリガー・ガード内のトリガー前方にはスライド式のセーフティが設けられています。

J. スティーブンス社 (J. Stevens & Co.) が製造したポンプ・アクション式ショットガンです。1920年に同社はサベージ社に買収されましたが、スティーブンス・ブランドでの銃器製造は続けられ、1954年にモデル620 (モデル520のレシーバーを丸みを帯びた形状に変更したモデル) の後継としてモデル77が登場しました。1969年までモデル77のセーフティはトリガー付近に設けられていましたが、その後レシーバー上部に移されました。モデル77は高品質で競合製品に比べて安価であったことから、スポーツや狩猟用途の他、警察用としても広く普及しました。モデル77には主に仕上げを変更した派生型としてモデル30、モデル67、モデル69、モデル79が存在します。



トリガー・ガード後部にはクロス・ボルト式のセーフティが設けられています。

Mossberg Model 500 Shotgun



Mossberg Model 500 Shotgun
モスバーグ M500 ショットガン
(カナダ・ケベック警察刻印)



全長 988mm
(719mm)
口径 12GA
装弾数 5+1発

Mossberg Model 500 Bullpup Shotgun



Mossberg Model 500
Bullpup Shotgun
モスバーグ M500
ブルパップ ショットガン



全長 725mm
口径 12GA
装弾数 5+1発

モスバーグ M500は、米国のモスバーグ社が1962年から生産を開始したポンプ・アクション式ショットガンです。基本的な設計はウィンチェスターやレミントン・製品を踏襲していますが、大型で操作しやすいセーフティ・レバーを後部に配置し、自動トリガー・ディスコネクターを備えるなど、高い安全性を確保しています。また、部品点数を減らし、容易に分解できるようにする事で、整備性や信頼性の向上、低コスト化を実現しました。現在でも基本設計は変わらず、アクション・バーが片側から両側に増設された以外に大きな変更はありません。かつては口径に応じてモデル名にアルファベットが付与され、12GAモデルが500A、16GAモデルが500B、20GAモデルが500C等と呼ばれていました。

SURETE DU QUEBEC POLICE

本個体のレシーバー左側面には、カナダ・ケベック警察が使用した事を示す刻印が入っています。

モスバーグ M500をベースに製造されたブルパップ・スタイルのポンプ・アクション・ショットガンです。ストックはグリップと一体となった樹脂製で、フォア・エンドには操作性を高める為のバーティカル・グリップが設けられています。また、フロント・リア・サイトを内蔵したキャリング・ハンドルの他、銃身にはヒート・シールドが標準で装備されました。マニュアル・セーフティは、トリガー前方のクロス・ボルト式のものに加えて、グリップ・セーフティも装備されています。銃身長や装弾数はそのままに全長の短縮が可能であるというブルパップ式の利点とともに、ショットガンでありながら近未来的なデザインが注目され、発表当時は多くの映画に登場し、印象的な活躍を残しました。



ストック左側面には、射撃を右肩からのみ行うよう促す警告文が大きく入っています。

写真のものはすべて所有実銃です。

Mossberg Model 590 Shockwave



Mossberg Model 590
Shockwave
モスバーグ M590
ショックウェーブ



全長 670mm
口径 12GA
装弾数 5+1発

Mossberg Model 590A1 Shotgun



Mossberg
Model 590A1
Shotgun
モスバーグ
M590A1 ショットガン



全長 980mm
口径 12GA
装弾数 5+1発

モスバーグ M590 ショットガンは、1975年にモスバーグ M500 ショットガンの軍及び法執行機関向けの特別モデルとして開発されました。基本設計はM500と同様ですが、耐久性や信頼性の向上が図られています。高トリガーガード及びセーフティの材質はM500と同様に樹脂製となっています。M590はセルフ・ディフェンス用として民間市場への販売も行われており、20GA及び.410口径のホーム・ディフェンス・モデルも販売されています。M590のバリエーションであるM590 ショックウェーブは、約14インチの銃身と独特な形状のピストル・グリップを備えており、屋外用でありながら米国の一般市民が煩雑な手続き無しで通常購入できるモデルとなっています。



銃をしっかりと保持できるように、フォアエンド下部にはストラップが取り付けられています。

1975年にモスバーグ M500 ショットガンの軍及び法執行機関向けの特別モデルとして開発されたM590をベースに、米軍が定めた規格 (MILSPEC 3443E) をクリアする為、さらなる改良を加えて開発されたのがモスバーグ M590A1 ショットガンです。当初から軍・法執行機関向けとして開発されたモスバーグ M590の耐久性が更に強化されており、特別なヘビー・モデルを備えています。銃身の変更に伴い、ヒート・シールドがM590と共用出来なくなったため、M590A1専用部品がオプションとして用意されました。M590A1は特に過酷な状況下での選択肢として用意されており、世界各国の軍や法執行機関に供給され、その堅牢性は高い評価を受けています。



レシーバー左側面には大きく「M590A1」のモデル名刻印が入っています。

写真の図はすべて概略図であり、実際とは異なります。

High Standard K-1200 Model 8111 Riot Shotgun

High Standard Model 10B Police Shotgun

High Standard
K-1200 Model 8111
Riot Shotgun
ハイスタンダード
K-1200 モデル8111
ライオット・ショットガン



全長 965mm
口径 12GA
装弾数 6+1発



High Standard/
Model 10B Police Shotgun
ハイスタンダード
M10B ポリス・ショットガン



全長 680mm
口径 12GA
装弾数 4+1発

米国のハイスタンダード (High Standard) 社が1960年代から1970年代初頭頃にかけて販売したフライト・キング (Flite King) と呼ばれる一連のポンプ・アクション式ショットガンのシリーズの一つです。K-1200は1966年5月に登場したモデルで、仕様の違いによって異なるカタログ・ナンバーが割り振られており、#8111はビード・ランプ・タイプのフロント・サイトと18インチ銃身を備えたライオット・スタンダード・モデルです。ハイスタンダード社製のショットガンは1960年代後半頃から品質の低下が始まり、他のショットガンメーカーの製品に対する競争力が低下したことから、1970年代半ばに生産を終了する事になりました。



本個体では銃口下部と銃床にスリング・スイベルが装備されています。

ハイスタンダード社が製造したブルバップ型のセミオートマチック・ショットガンです。初期型であるM10Aでは本体上部にフラッシュ・ライトを内蔵したキャリング・ハンドルが装備されていたが、改良型のM10Bでは本体上部にリア・サイトを兼ねた、フラッシュ・ライト及びキャリング・ハンドルの取り付け用マウントが装備されるようになり、銃身先端には折り畳み式のフロント・サイトを備えています。本銃は1960年代後半から1970年代初頭にかけて法執行機関向けに販売されましたが、指定の弾薬を使用した場合でも作動不良が頻発した他、トリガーの感覚が掴み難く、さらに反動でフラッシュ・ライトが損傷するなど多くの欠点が指摘され、最終的に使用が中止されました。



本体後部には回転可能なバット・プレートが取り付けられています。

Smith & Wesson Model 916A Shotgun

FN Tactical Police Shotgun



Smith & Wesson
Model 916A Shotgun
スミス & ウェッソン
M916A ショットガン



全長 1,015mm
口径 12GA
装弾数 7+1発



FN Tactical Police
Shotgun
FN
タクティカル・ポリス
ショットガン



全長 1,015mm
(930mm)
口径 12GA
装弾数 7+1発

米国のスミス&ウェッソン(S&W)社がショットガン市場に本格参入する事を目論んで開発したポンプアクション式ショットガンで、1973年から1980年頃にかけて製造が行われました。本銃の設計はS&W社オリジナルの物ではなく、Noble Manufacturing社から取得した物でした。しかしながら、本銃には設計上の欠陥があり破損の恐れがあった事から、警察機関等からの評価は低いものでした。M916シリーズには各種のバリエーションが存在し、スポーツ向けのM916やライオット・モデルのM916A、テイクダウン・モデルのM916Tが製造されました。M916及びM916Aのフロント・サイトはブード・サイト及びライフル・サイトの二種類が存在します。



レシーバー左側面にはS&W社のロゴが大きく入っています。

ベルギーのFN ハースタルが設計し、同社の関連企業であるU.S. リピーティング・アームズ社が2003年から製造したポンプアクション式散弾銃で、Tactical Police Shotgunを略したTPSとも呼ばれます。内部構造はウィンチェスターM1300を改良したもので、3ポジションの伸縮式ストックの他、M16A2スタイルのフロント/リアサイト及びピストル・グリップ、レシーバー上面のピカティニー・レールといった近代的な機能を備えています。また、発射反動に伴う慣性がスライドの初動を補助し、銃身と噴き合う4箇所のラグを備えたローテーション・ボルトのロックが解除されるため、スムーズで素早いポンプアクション操作を実現しています。



フロント・サイト後方の銃身上部にはガスポートが開けられています。

Kel-Tec KSG Shotgun

Kel-Tec KSG Shotgun
Kel-Tec KSG ショットガン



全長 675mm
口径 12GA
装弾数 7×2+1発

Kel-Tec KS7 Shotgun

Kel-Tec KS7 Shotgun
Kel-Tec KS7 ショットガン



全長 663mm
口径 12GA
装弾数 6+1発

米国フロリダ州のKel-Tec CNC インダストリーズ社が製造する、ブルバップ・スタイルのポンプ・アクション式ショットガンです。本銃を設計したスウェーデン出身の銃器デザイナーであるGeorge Kellgrenは、本銃以前にイントラダックTEC-9やKel-Tec P-11ピストルを設計した事でも知られています。本銃の最大の特徴は銃身下部に配置された2本のチューブ・マガジンで、レバー切り替えにより2本の弾倉のどちらから給弾を行うかを選択可能です。切り替え用の3ポジション・レバーはグリップ後方の給弾/排弾ポート内前部に設けられており、レバーを中央のポジションに入れると弾倉からの給弾がストップし、装弾を薬室に直接装填する事も可能です。



本体上面及びフィアードン下面にはロッキング・レールを備えており、各種アクセサリ類の取り付けが可能となっています。

Kel-Tec KSG ショットガンをベースに、KSGの特徴である2本のチューブ・マガジンを1本に減らしたモデルです。これによりKSGに比べて軽量で取り回しが容易である他、弾倉の切り替えレバーも省略されるなど、内部機構もシンプルなものになっています。KSGと同様に、グリップ上部にはクロス・ボルト・セーフティを備えており、左右どちらからでも操作が可能となっています。装弾数は3インチ装弾を使用した場合、6+1発となっています。ブルバップ・スタイルのため、26.1インチ(663mm)の全長に対し、銃身長は18.5インチ(470mm)と十分に長く取られています。本体上部にはM-LOKスロットを備えたキャリング・ハンドルが取り付けられています。



キャリング・ハンドル側面のM-LOKスロットには、キック・ホルダーやフラッシュ・ライト等の取り付けが可能です。

M79 Grenade Launcher



M79 Grenade Launcher
M79 グレネード・ランチャー
全長 737mm
口径 40mm×46
装弾数 単発

米国で1950年代に開発された単発のグレネード・ランチャーです。銃身とレシーバーがヒンジで固定された中折式となっており、ブレイク・オープンさせた状態で薬室に弾薬を装填した後、銃身を戻すと内蔵されたハンマーが自動的にコッキングされる構造となっています。トリガーガードは前後を軸として側面に向転させる事により、寒冷地でもグローブを嵌めたまま射撃が可能です。M79用の40mm弾としては、当初開発されたM406 HE-FRAGに加えて、焼夷弾や照明弾、破片/対装甲弾、焼夷弾、近接戦用のキニスター弾といった様々なタイプが開発されました。M79はベトナム戦争中に米軍により多数使用され、1971年に米国での生産が終了するまでに30万挺以上



リフサイトは射距離75mから375mまで対応しており、右方向への弾道のずれを補正する為、射距離が伸びるに伴いサイト位置が左側に移動します。

M203 Grenade Launcher



M203
Grenade Launcher
M203
グレネード・ランチャー



全長 380mm
口径 40mm×46
装弾数 単発

※M16A1への装着状態

1960年代後半に米国のAAIコーポレーションにより開発されたアンダー・バレル・グレネード・ランチャーで、M16A1やM16A2自動小銃のハンドガードを置き換える形で銃身の下部に取り付けて使用します。ランチャーの銃身はアルミニウム製で、内部にはライフリングを備えています。ランチャー左側面のレバーを押し込んで銃身とレシーバーのロックを解除した後、銃身を前方にスライドさせて後方から弾薬を装填します。装填後は銃身を後退させてレシーバーとロックした後、後部のトリガーにより発射を行います。照準器は250mまで対応したラダー・サイトに加えて、M16のキャリング・ハンドルに装着可能な400mまでのクワドラント・サイトも使用可能です。



トリガー上部の本体左側面にはコルト社のロゴやメーカー制図に加えて、「LAUNCHER, GRENADE 40 MM」M203のモデル名やシリアルNo.が打刻されています。

Mk19 Mod.3 Automatic Grenade Launcher

Mk19 Mod.3
Automatic Grenade Launcher
Mk19 Mod.3
オートマチック グレネード・ランチャー



全長 1,095mm
口径 40mm×53
装弾数 ベルト給弾



米海軍により開発されたベルト給弾式の自動榴弾発射器です。Mk19の開発は1966年に始まり、ベトナム戦争中には初期生産型のMk19 Mod.0が河川哨戒艇やUH-1ヘリコプターに搭載されました。1971年頃には改良型のMod.1が開発され、1974年頃にはレシーバーをスリム化したMod.2が開発されましたが信頼性に乏しく試作の域を出ませんでした。1981年に各部を簡略化し耐久性を高めた改良型であるMk19 Mod.3が採用され、サコ・ディフェンズ社により製造が行われました。作動方式はAPIブローバック方式で、オープン・ボルト位置から射撃を行います。本体はアダプターを介してM3三脚に装着できる他、車両や舟艇にも搭載可能です。



本体上部には射距離300mから1,500mまで対応したリ・サイトが内蔵されています。

M18A1 57mm Recoilless Rifle



M18A1 57mm Recoilless Rifle
M18A1 57mm 無反動砲



全長 1,564mm
口径 57mm
装弾数 単発

1943年に米軍で開発された口径57mmの無反動砲で、砲身の薬莢に多数設けられたガス放出用の小孔から発射ガスの一部を砲身後部のガス拡散チャンバーを介して尾栓へと導き、尾栓のガス噴出孔から噴射する事により反動を軽減しています。トリガーは砲身中部に取り付けられたグリップに設けられており、ワイヤーを介して砲後部の撃発機構を作動させます。対戦車榴弾(HEAT)を使用した場合、450mまでの距離で63mmの均質圧延鋼装甲を貫通する事が可能でした。本砲は付属の二脚と一脚を使用した伏射の他、肩に担いだ状態からの立射やM1917A1三脚に搭載しての運用も可能でした。M18の改良型であるM18A1では光学照準器が追加される等の改良が行われています。



運用要員は射手と装填手の2名で構成され、装填手は砲後部の尾栓を開いて弾薬の装填を行います。

写真はすべて無反動砲隊です。

HK SL8-6 Self-loading Rifle

HK SL8-6
Self-loading Rifle
HK SL8-6 自動小銃



全長 980mm
口径 5.56mm×45
装弾数 10発



HK SL8はドイツのHeckler & Koch (HK)社が同社の軍用自動小銃であるG36をベースに開発した民間向けの自動小銃です。作動方式はベースとなったG36と同様に、ショートストロークピストンを用いたガス圧利用方式で、射撃機能はセミオートマチック射撃のみです。ポリマー製の銃床はモジュラー設計によりハンドガードやマガジンハウジングを容易に交換可能で、サム・ホールタイプのストックはチーク・レストやフル・レングスの調整も可能です。SL8のバリエーションの一つであるSL8-6は黒色の銃床を備え、ショートタイプのサイト・レール及び冷却孔が設けられたハンドガードを備えています。マガジンはシングル・カラム・10連タイプが標準です。



コッキング・ハンドルはG36と同様にレシーバー上部に設けられており、左右どちらからでも操作することが可能です。

Mauser SP66 Sniper Rifle

Mauser SP66
Sniper Rifle
モーゼル SP66 狙撃銃



全長 1,125mm
口径 7.62mm×51
装弾数 3発



1976年頃にモーゼル モデル66 スーパー・マッチ・ライフルをベースに開発された狙撃銃で、ベースとなったモーゼル モデル66と同様にゲーマン社 (Gehmann GmbH & Co. KG) が開発したショートストロークのボルト・アクション機構を備えており、次弾の迅速な射撃を可能としています。一般的なモーゼル・アクションと異なり、ボルト・ハンドルをボルトの前面、ロッキング・ラグのすぐ後方に設ける事により、ボルト・アクション機構の全長が通常の半分近くまでにまで抑えられています。モーゼル SP66は1985年頃に後継のモーゼル SP86が登場するまで生産され、ドイツ、イタリア、イスラエルなど各国の軍や警察で広く使用されました。



アイアン・サイトは標準装備されておらず、1.5-6倍のツァイス Diavari ZA スコープ等を搭載して使用されます。

写真の図はすべて概略図であり、実際とは異なる場合があります。

Gew.3 SG/1
Sniper RifleGew.3 SG/1 Sniper Rifle
Gew.3 SG/1 狙撃銃全長 1,350mm
口径 7.62mm×51
装弾数 5/10/20発HK PSG1
Sniper RifleHK PSG1
Sniper Rifle
HK PSG1 狙撃銃全長 1,208mm
口径 7.62mm×51
装弾数 5/20発

Gew.3自動小銃の生産ラインから、試射により高精度な個体を選別して狙撃銃仕様としたもので、1972年に導入されました。モデル名の「SG」はドイツ語で狙撃銃を意味する「Scharfschützengewehr」を略したものです。カール・ツァイス製のDiavari-DA 1.5-6x可変倍率スコープやチークライザー、二脚等を装備する他、セット・トリガー機能を備えた専用のトリガー・グループが取り付けられており、トリガー後方のボタンを押し込む事によりトリガー・バブルが軽く短いものになり、狙撃時のぶれを抑制しています。また、狙撃任務から通常戦闘への移行が即座に行えるように、フル・オートマチック射撃機能が残されている点も特徴です。



セット・トリガー機能を備えた専用のトリガー・グループ、セット・トリガーはセレクトアを安全位置に入れるとリセットされます。

ドイツのHeckler & Koch社により開発された高精度の半自動狙撃銃です。基本構造はGew.3自動小銃をベースに大幅な改良を加えたもので、ローラー遅延ブローバック機構はローラーが回転しないように変更され、ヘッドスペースの安定化を図っています。銃身はフリー・フローティング構造で、プレス製レシーバーは鉄製の部品を溶接により追加して補強されています。グリップ下部のバーム・ストップやチャーク・レスト、バット・プレート等は調整可能です。排弾口後方にはラチェット機構によりボルト・キャリアと連動したボタンを備えており、発射準備を静粛に行う事が可能となっています。アイアン・サイトは設けられておらず、Hensoldt社製の6×42固定倍率スコープが搭載されます。



ボルト・ハンドルのをひっくり返した場合にも、排弾口後方のボタンを押し込む事によりボルトを確実に前進・閉鎖させる事が可能です。

写真の図はすべて機内図面に基づいています。

MP5A2 Sub Machinegun

MP5A2 Sub Machinegun
MP5A2 短機関銃



全長 710mm
口径 9mm×19
装弾数 10/15/30発



MP5KA1 Sub Machinegun w/ Special Case

MP5KA1 Sub Machinegun
w/ Special Case
MP5KA1 短機関銃
EN組立品、シーツ・コフファー付



全長 320mm
口径 9mm×19
装弾数 10/15/30発



ドイツのHuckler & Koch (HK) 社がGew.3自動小銃の技術を応用して開発した9mm×19パラベラム弾を使用する短機関銃です。Gew.3と同様のローラー遅延ブローバック方式を採用し、セミ・オートマチック射撃時の高い命中精度に加えて、フル・オートマチック射撃時のコントロール性にも優れています。当初は高価でオーバースペックな短機関銃と評価されていましたが、1977年のルフトハンザ航空181便ハイジャック事件でGSG-9がMP5を使用して活躍した事で評価が一変し、特に警察特殊部隊向けの理想的な短機関銃として知られるようになりました。MP5A2は、固定ストックとセミ・フル・オートマチック射撃用のトリガー・ハウジングを備えたモデルです。



本個体は1976年製で、スリム・ラインハンドガードとフィンガー・チャンネル付トリガー・ハウジングを備えています。

MP5短機関銃を要人護衛等の用途でコンシールドキャリアに特化させたのがMP5Kで、銃身が短縮された他、ストックが省略されています。MP5Kの派生モデルであるMP5KA1は、フロント・サイトがガードのない低い形状となっている他、リア・サイトが固定式のノッチ・タイプに変更されています。シーツ・コフファー(Schießkoffer)は、銃本体を入れたまま射撃を可能とした特殊なブリーフ・ケースで、ハンドル部に設けられたセーフティを解除しながらトリガーを引く事により、ケース側面に設けられた穴から発射が行われます。発射済みの薬莢が排莢孔から銃本体内に戻って作動不良が発生しないよう、銃本体の取り付けマウントにはケース・ディフレクターが設けられています。



ブリーフ・ケース側面には発射用の穴が設けられています。

Carcano M1891 Carbine

Carcano M1891/24 Short Rifle

Carcano M1891
Carbine
カルカノ M1891
騎兵銃



全長 920mm
口径 6.5mm×52
装弾数 6発

Carcano M1891/24
Short Rifle
カルカノ M1891/24
短小銃



全長 920mm
口径 6.5mm×52
装弾数 6発



トリノ陸軍工廠でサルヴァトーレ・カルカノ技師によって開発されたカルカノ小銃は、イタリア軍初の無煙火薬を使用する制式小銃で、従来のベチューリ小銃用の10.4mm弾に比べて大幅に小口径化された6.5mm×52マンリッカー・カルカノ弾を使用します。弾倉はエンブロッククリップを使用するマンリッカー方式を改良した物が用いられており、クリップから最終弾が引き抜かれると、空のクリップがマガジンハウジングの下部から排出されます。M1891騎兵銃は第一次世界大戦時のイタリア軍の主力騎兵銃で、銃を背負った際に他の装具に引っ掛からない様に、ボルト・ハンドルが下方に折り曲げられています。また、銃身下部には折り畳み式の銃剣が装備されています。



リアサイトは450mから1,500mまで調整可能で、サイト・リーフを前方に倒すと300m用のVノッチサイトが使用可能となります。

イタリアでは1900年に砲兵等の兵科向けとして、歩兵銃よりも全長を短縮したカルカノM1891 TS短小銃と呼ばれるモデルが騎兵銃とは別に採用され、ブレンシア工廠で1898年から1919年まで製造が行われました。その後、短小銃の需要増大に伴いM1891 TS短小銃の在庫数が少なくなると、新たにカルカノM1891歩兵銃をベースにした短小銃の製造が開始される事になりました。初期に歩兵銃から改修されたM1891/24と呼ばれる短小銃モデルは、歩兵銃からリアサイトの部品を流用していましたが、銃身の短縮に伴い射程が1,500mと短くなった事に合わせて改造が加えられています。ボルト・ハンドルはM1891騎兵銃と同様に下方に折り曲げられています。



リアサイトは歩兵銃から流用された大型のタイプですが、最大射程は1,500mまでに短縮されています。

Carcano M1891 TSm Short Rifle

Carcano M1891 TSm
Short Rifle
カルカノ M1891 TSm
短小銃



全長 920mm
口径 6.5mm×52
装弾数 6発



Carcano M1891/38 TS Short Rifle

Carcano M1891/38 TS
Short Rifle
カルカノ M1891/38 TS
短小銃



全長 925mm
口径 6.5mm×52
装弾数 6発



カルカノ M1891/24 のリアサイト部品は歩兵銃からの流用でしたが、その後リアサイトを短小銃専用の短いタイプに変更したモデルが製造されるようになり、これは M1891 TSm 短小銃 (Moschetto modello 1891 per Truppe Speciali modificato) と呼ばれます。M1891 TSm の派生型として、本体右側面に Mod. 28 グレネードランチャーを取り付けられるよう、ハンドガードにグレネードランチャー金具取り付け用のスリットが設けられたモデル (Moschetto modello 1891 per Truppe Speciali con tromboncino mod. 28) も製造されました。



M1891 TSm のリアサイトは短小銃専用設計となり、前後に短い形状へと変更されました。

M1891/38 TS 短小銃は砲兵や工兵、輜重兵といった部隊向けに製造された TS (Truppe Speciali) モデルの最終型で、1938 年から 1940 年にかけて 7.35mm 弾仕様のタイプが製造されていましたが、1940 年以降は M1938 短小銃と同様に、口径を 6.5mm 仕様としたモデルが製造されました。リアサイトについても M1938 短小銃と同様に固定式のタイプが装備されており、リアサイト前部には使用弾薬の口径を示す「CAL. 6.5」の刻印が入っています。6.5mm 仕様の M1891/38 TS 短小銃の製造はベレッタ社及び F.N.A. Brescia 社のみで行われ、約 198,000 挺が製造されたと言われています。



固定式リアサイトの前方に「CAL. 6.5」の口径表示刻印が入っています。

AL.GI.MEC. AGM1 Carbine

AL.GI.MEC. AGM1 Carbine
AL.GI.MEC. AGM1 カービン



全長 685mm
口径 9mm×19
装弾数 13/20発



Beretta CX4 Storm Carbine

Beretta CX4 Storm Carbine
ベレッタ CX4 ストーム カービン



全長 775mm
口径 9mm×19
装弾数
10/15/20/30発



1980年代半ばにはイタリアの法執行機関向けとして開発された、拳銃弾を使用するブルバップスタイルのカービンです。イタリアの警察機関による採用は実現しなかったものの、AL.GI.MEC.社から民間市場向けに販売が行われました。作動方式はブローバック式で、クローズド・ボルト位置から射撃を行います。銃身長は18インチで、9mm×19弾もしくは9mm×21弾仕様のモデルが製造され、1989年までの間に米国にも少数が輸入されました。また、9mm×19弾や9mm×21弾以外の口径(45ACP、45HR、22LR、22WMR)のモデルも発表され、銃身とマガジン・ウェル・グリップを交換する事により、様々な口径に対応できる構造となっていました。



コッキング・ハンドルは本体上部に設けられており、ボルトと連動して射撃中に前後する構造となっています。

ベレッタ社が「ストーム」シリーズの一つとして2003年に発表した、拳銃弾を使用する自動小銃です。人間工学に基づく近未来的なポリマー製銃床を備えた、コンパクトで扱いやすい自動小銃として民間や法執行機関向けに販売されています。9mm×19弾、9mm×21 IMI弾、40S&W弾、45ACP弾に対応しており、銃身、ボルト、グリップ内のマガジン・インサートを交換する事により、使用弾薬の変更が可能です。ボルトはその大部分がフリー・フェイス前方の銃身周囲に配置されており、クローズド・ボルトのブローバック方式で作動します。排気孔は本体前面に設けられており、コッキング・ハンドルや内部部品を組み替える事により、左右どちらからの排気にも対応可能です。



フリップ式ビーズサイトはSR(短距離)とLR(長距離)の切り替えに加え、光学照準器使用時には前方に折り込む事も可能です。

SITES Spectre HC Sub Machinegun

SITES Spectre HC
Sub Machinegun
シテス スペクトラ
HC 短機関銃



全長 595mm(365mm)
口径 9mm×19
装弾数 30/50発



Luigi Franchi LAW 12 Shotgun

Luigi Franchi
LAW 12 Shotgun
ルイギ・フランキ
LAW 12 ショットガン



全長 1,120mm
口径 12GA
装弾数 8発



イタリアトリノのSITES(シテス)社が製造した、スペクトラM4短機関銃の民間向けセミオートマチックバージョンです。ベースとなったスペクトラM4は1980年代半ばに設計され、本体にプレス加工や樹脂製部品が多用された小型・軽量の設計が特徴です。作動方式はストライカー撃発によるクロス・ボルトのブローバック方式で、リガーズ・カニズムはデコッカーを備えたダブルアクション式となっています。マガジンは特殊な複列式の多弾数マガジンの他、より装弾数の少ない複列式のマガジンも使用可能です。民間向けモデルにはスペクトラM4と同様のフォールディング・ストック及びフォア・グリップを備えたタイプの他、これらを省略したタイプも存在します。



本体両面にセーフティ・レバー及びデコッキング・レバーを備えており、いずれもアンビタイプとなっています。

イタリアのルイギ・フランキ社がスバス12をベースに開発した半自動式ショットガンです。スバス12は手動によるポンプ・アクションとガス圧利用による半自動をワンタッチで切り替える機構を備えていますが、整備の複雑さや高コスト化を招いていました。LAW 12では作動方式を半自動のみとし、低コスト化や軽量化が図られた他、スバス12の特徴であった攻撃的な外観も、より控え目なスタイルに変更されています。大半のLAW 12は固定ストック仕様として販売されましたが、スバス12用のフォールディング・ストックも互換性があります。本銃は1994年まで米国への輸入販売が行われて警察組織にも採用され、パトロール用や特殊部隊用装備として使用されました。



本体はトリガー・ガード前方にレバー式の「クイック・エンプロイメント・セーフティ」及びクロス・ボルトタイプの「キャリア・セーフティ」を備えています。

Benelli M3 Super 90 Shotgun

Benelli M3
Super 90 Shotgun
ベネリ M3
Super 90 ショットガン



全長 1,040mm
口径 12GA
装弾数 7+1発



イタリアのベネリ社 (Benelli Armi SpA) により開発された、セミオートマチック射撃とポンプアクションの切り替えが可能な散弾銃です。ベネリ M1と同様の慣性利用のセミオートマチック射撃機構に加えて、ポンプ・アクション・モードへの切り替えを迅速に行える機能を備えており、ポンプ・アクション・モードでは主に非致死性のゴム弾や催涙弾等といった低威力弾薬、セミオート・モードではスラッグやバックショット等の高威力弾薬を発射する事が可能となっています。尚、M1、M2、M4といった他のベネリ社製の半自動式散弾銃は、リコイルスプリングがストック・チューブ内に設けられているのに対し、M3ではマガジン・チューブの周囲に配置されています。



セミオートマチック射撃とポンプアクションの切り替えは、フォアエンド前方に設けられたセレクター・リングを用いて行います。

Steyr TMP Sub Machinegun



Steyr TMP
Sub Machinegun
ステアー TMP
短機関銃



全長 282mm
口径 9mm×19
装弾数 15/30発



オーストリアのシュタイヤー・マンリッヒャー社が1990年代初頭に発表した警察・特殊部隊向けの短機関銃で、樹脂製部品を多用した軽量な作りとなっています。作動方式はローディング・バレルを備えたショート・リコイル式で、連射時のコントロール性向上の為、本体前方下部にフォア・グリップを備えている他、着脱式のストックも用意されました。グリップ基部にはクロス・ボルト式のセレクターを備え、左側もしくは右側からの押し込み量に応じて射撃機能の切り替えを行います。バレル・ジャケット先端にはネジが切られており、サレンサーの取り付けが可能です。TMPの製造権は2001年にスイスのB&T社に売却され、同社はTMPを基に改良を加えたMP9短機関銃の製造を行っています。



セレクターは右方向に完全に押し込むと安全位置、左方向に完全に押し込むとフル・オート、中間位置がセミ・オートとなります。

SIG SG553-2 Assault Rifle



SIG SG553-2
Assault Rifle
SIG SG553-2
自動小銃



全長 740mm
(485mm)
口径 5.56mm×45
装弾数 20/30発

スイスのSIG社が開発したSG550には多くの派生型が存在し、SG550をベースに特殊部隊での使用を想定して銃身とハンドガードを短縮したバージョンであるSG551の他、さらなる短縮モデルであるSG552やその改良モデルであるSG553が存在します。SG552では銃身とガス・ピストンの短縮に伴い、リコイルスプリングの配置がガス・ピストン部からボルト・キャリア後方に移されましたがSG553ではリコイルスプリングがSG550/551と同様にガス・ピストン側へと戻されました。SG553には銃身長の違いにより、SG553 LB(347mm)とSG553 SB(227mm)といったモデルが存在する他、使用弾薬の異なるバリエーションも存在します。



本例体に付属のストックは、折り畳み機能に加えて3ポジションの伸縮調整機能も備えています。

Carl Gustaf 84 mm Recoilless Rifle



Carl Gustaf 84 mm Recoilless Rifle
カール・グスタフ 84mm 無反動砲
全長 1,130mm
口径 84mm
装弾数 単発

1940年代後半にスウェーデン軍王立陸軍兵器局(KAFT)によって開発された口径84mmの携帯可能な肩撃ち式無反動砲です。発射時に弾底板が破砕する構造の薬英を使用する事により、発射する砲弾と同程度の運動エネルギーを持つガスを砲身後部のノズルから後方に噴出させて反動を軽減します。装填時には本体後部のハンドルを用いて蝶番式の尾部を回転させて開放した後、後部から砲弾を装填します。発射された弾頭を安定させるため、砲身内にはライフリングが設けられています。照準には各種光学照準器が装着されて用いられる他、折り畳み式のアイアン・サイトも備えています。1964年に登場した第2世代のガール・グスタフ M2は、砲身を短縮して軽量化を行った輸出向けモデルです。



本体後部にはノズル(ベンチュリー部)のロック解除及び開閉を行うためのハンドルを備えています。

写真の図はすべて概略図であり、実際とは異なります。

Valmet M71/S Self-loading Rifle



Valmet M71/S
Self-loading Rifle
バルメット M71/S
自動小銃



全長 940mm
口径 5.56mm×45
装弾数 15/30発

Valmet M82 Bullpup Assault Rifle



Valmet M82 Bullpup Assault Rifle
バルメット M82 自動小銃
全長 685mm
口径 5.56mm×45
装弾数 10/30発

バルメット RK 62 自動小銃の改良型としてフィンランドで開発された RK 71 (7.62 RK 71) 自動小銃をベースに、セミオートマチック射撃機能のみとした民間向けモデルです。ベースとなった RK 71 の作動方式は、RK 62 と同様のロングストローク・ピストンを用いたガス圧利用式ですが、レシーバーが削り出し製から鋳板プレス製に変更されています。また、

RK 71 ではフロント・サイトがガス・ブロック上部から銃口付近へと移された他、リア・サイトもレシーバー・カバー後部から前部へと移設されています。フィンランド国防軍は、RK 62 の後継として 1971 年から 1973 年にかけて RK 71 をテストしたものの、大規模な採用は見送られました。



リア・サイトはスケエ・ノッチで、200m から 500m までの間で調整が可能です。

フィンランドのバルメット社 (Valmet) が RK 62-76 自動小銃をベースに開発したブルパップ式の自動小銃で、RK 62-76 から流用したプレス製レシーバーを繊維強化樹脂製の外装で覆った構造となっており、フロント・サイト及びリア・サイトは本体に対して左側にオフセットされた位置に取り付けられています。M82 は 1978 年に発表され、1986 年に生産が終了するまでに僅か 2,000 挺程度しか生産されなかったと言われています。少数の M82 がフィンランド軍空軍部隊向けのサンプルとして試験されたものの採用は見送られ、大半が米国輸出向けの 5.56mm×45 NATO 弾を使用するセミオートマチック射撃機能のみの仕様として生産されました。



リア・サイト・ベース前後面には、「M82 Cal. 5.56mm (223)」のモデル名その他、バルメット社のロゴや「Made in Finland」の刻印が入っています。

写真の銃はすべて無効銃器です。

Suomi M31 Sub Machinegun, Late Type

Suomi M31
Sub Machinegun
Late Type
スオミ M31
短機関銃(後期型)



全長 920mm
口径 9mm×19
装弾数
20/36/40/50/71発

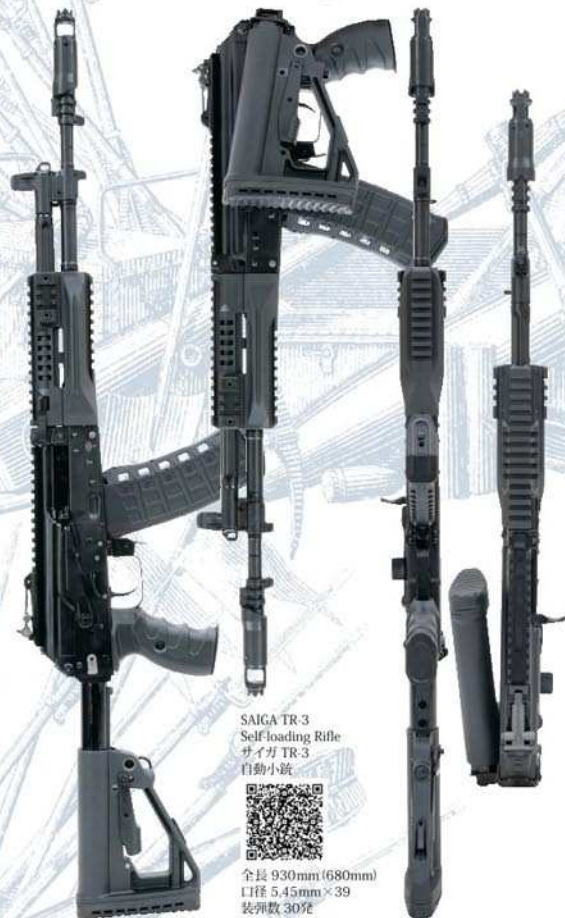


SAIGA TR-3 Self-loading Rifle

SAIGA TR-3
Self-loading Rifle
サイガ TR-3
自動小銃



全長 930mm (680mm)
口径 5.45mm×39
装弾数 30発



ラハティL-35拳銃やラハティE-39対戦車ライフルの設計者であるアイモ・ラハティ(Aimo Lahti)が設計した短機関銃です。試作品のM22を経て、当初M26がフィンランド軍制式となりましたが、大きくカーブしたマガジンに起因する送弾不良等が生じたため、新たにドラム・マガジンを採用し、セレクターにも改良を加えたモデルがM31(Konepistooli m/31)として制式となりました。M31 SJRと呼ばれる後期型では銃口部に長いマズル・ブレーキが追加され、上部の孔から発射ガスが噴出させる事により銃口部の跳ね上がりや抑制しました。モデル名のSJRはフィンランド語でマズル・ブレーキを意味する Suujarru の略です。



マズル・ブレーキ上部には10個のガス・ポートが設けられています。

ロシア軍の採用する最新自動小銃であるAK-12を基に、民生用としてセミ・オートマチック射撃機能のみに限定したモデルです。サイガ TR-3 (AK-12)の作動方式は、従来型AKと同様のガス圧利用方式ですが、フロント・リア・トリオンの互換性はなく、レシーバー・カバーの固定方法も前方のピンによる固定へと変更されており、ピカティニー・レールに取り付けられた光学照準器のゼロインが長時間の使用を通じて保持される構造となっています。ハンドガードは銃身と接触しないフリーフローティング構造で、銃口部には効果的なマズル・コンベンセーターが取り付けられています。マガジンは弾薬確認用の窓が設けられた新型が付属しますが、従来型のマガジンとも互換性が保たれています。



ピストル・グリップ内にはオイラーを収納可能で、グリップ側面のボタンを押す込む事によりオイラーの取り外しを行います。

写真はすべてすべて無断複製禁止です。

KO VSS-01M Sniper Rifle

KO VSS-01M
Sniper Rifle
KO VSS-01M 狙撃銃



全長 894mm
口径 9mm×39
装弾数 10/20発



SAIGA-9 EXP Carbine

SAIGA-9 EXP Carbine
サイガ-9 EXP カービン



全長 695mm
(455mm)
口径 9mm×19
装弾数 30発



VSS "Vintores" は、1980年代にロシアのTsNIITochMashで特殊作戦用に開発された自動消音狙撃銃で、7.62mm×39弾をベースにネック形状を9mm弾頭用に変更した重音速弾薬を使用します。作動方式はロングストローク・ピストンのガス圧利用方式ですが、撃発機構は従来のAK系自動小銃とは異なりストライカー方式となっており、セレクトーはトリガー・ガード内のトリガー後方に配置されています。レシーバーにはサイド・レールが装備され、9mm×39弾用に調整されたPSO-1M2-1スコープを装着して使用されます。民生用モデルであるKO VSS-01Mではサイレンサー用の銃身の小穴が省略され、射撃機能がセミ・オートマチックのみとなっています。



スコープ用サイド・レールに加え、バックアップ用として420mまで対応したタンジントリ・アサイトも装備されています。

PP-19-01 Vityaz-SN 短機関銃を基に、民間輸出用としてセミ・オートマチック射撃機能のみに限定したモデルです。ベースとなったPP-19 Vityazは、2000年代初頭にロシアのイズマッシュ社によりPP-19 Bizon 短機関銃を発展させる形で開発されました。作動方式はブローバック方式で、クロズド・ボルト位置から射撃を行い、操作方法はオーソドックスなAKスタイルとなっています。ストックはAKS-74uスタイルのサイド・フォールディング・タイプで、レシーバー側面に各種光学機器装着用のサイド・レールが装備されています。尚、改良型であるVityaz-SNでは、ヒンジ式のレシーバー・カバーにピカティニー・レールを備えています。



50mから200mの間で調整可能なリアサイトの他、レシーバー・カバー上部にはピカティニー・レールが装備されています。

KK-MPi-69

Small Caliber Training Rifle

KK-MPi-69
Small Caliber
Training Rifle
KK-MPi-69 自動小銃



全長 875mm
口径 .22LR
装弾数 15発



東ドイツ(ドイツ民主共和国)で1970年代前半に製造された、MPi-KM(東ドイツ製AKM)と同様の外観を持つ.22LR弾を使用する訓練用自動小銃です。主に東ドイツの青年団体であるスポーツ技術協会(GST)において小銃の基本操作を習得する為の訓練機材として使用されました。マガジンは一般的な7.62mm口径のAK用マガジンに類似していますが、内部には15発の.22LR弾をシングル・カラムで装填できるインサートが固定されています。作動はブローバック方式で、クローズド・ボルト位置から発射が行われ、セミオートマチック射撃及びフル・オートマチック射撃が可能です。高、リアサイトの射距離は25m, 50m, 75m, 100mのみに限定されています。



ブローバック方式でガス・ピストンを持たないため、通常のAKに比べてハンドガード周辺はスリムな形状となっています。

Vz.26

Sub Machinegun



Vz.26 Sub Machinegun
Vz.26 短機関銃



全長 684mm
(445mm)
口径 7.62mm×25
装弾数 32発

チェコスロバキアで開発されたSa Vz.23シリーズの一つで、銃身をボルト前半部で包み込むように配置して全長を抑えるテレスコーピング・ボルト方式を採用し、イスラエルのUZ1の設計にも影響を与えました。Sa Vz.23シリーズは当初9mm×19弾仕様のVz.48a(固定ストックモデル)及びVz.48b(折り畳みストックモデル)が開発されましたが、1950年代に使用弾薬を7.62mm×25弾に変更する為の再設計が行われ、それまでのVz.48aをVz.23、Vz.48bをVz.25と改称し、新たに7.62mm×25弾仕様のモデルがVz.24(固定ストック)及びVz.26(折り畳みストック)として採用されました。



独立したセレクターは偏ておらず、2段引きのトリガーによりセミ・フル・オートマチック射撃の切り替えを行います。

Škorpion Vz.61 Sub Machinegun



Škorpion Vz.61
Sub Machinegun
Vz.61 スコーピオン
短機関銃



全長 510mm
(270mm)
口径 7.65mm×17
(.32ACP)
装弾数 10/20発

1950年代末に開発され1961年にチェコスロバキア軍制式となった極めてコンパクトな短機関銃です。主に車両搭乗員や通信兵等の自衛用武器として使用され、小型ながら短時間に多数の弾薬を発射し弾幕を張る目的で設計されています。ワイヤー・ストックはその名の通りサソリの尻尾のように本体上部に折り畳む事が可能で、グリップ内に内蔵された発射速度を調整するレート・リデューサーにより、コンパクトなサイズながら発射速度が約850発/分にまで抑えられています。Vz.61短機関銃はチェコの輸出公社オムニボールから世界各国へ輸出された他、ユーゴスラビアではライセンス生産も行われました。本銃は当初ブルー仕上げで製造されていましたが、その後グレーの焼付塗装へと変更されました。



本体下部のボルト・キャッチにより、最終弾発射後にボルトが開放位置で停止する他、セーフティを安全位置に入れるとボルトが固定されます。

Vz.61 Accessories



Vz.61 スコーピオン
ホルスター



初期型 ホルスター



フラップ裏面のスタンプ

ギボシは頭が平坦な形状

ビニールパイピングは薄い色合いとなっています。

後期型 ホルスター



フラップ裏面のスタンプ

ギボシは頭が若干尖った

ビニールパイピングは濃い色合いとなっています。

Vz.61 スコーピオン
マガジン・パウチ



初期型 マガジン・パウチ



フラップ裏面のスタンプ

ギボシは頭が平坦な形状

仕切り革はリベット補強が行われています。

後期型 マガジン・パウチ



フラップ裏面のスタンプ

ギボシは頭が若干尖った

仕切り革はリベット補強が行われています。

Vz.61 スコーピオン
クリーニング
キット



Vz.61 スコーピオン
ランヤード



Australian FAL L2A1 Squad Automatic Weapon

Australian FAL L2A1
Squad Automatic Weapon
オーストラリア FAL L2A1
分隊支援火器



全長 1,110mm
口径 7.62mm×51
装弾数 20/30発

Australia / Israel

UZI Pro Sub Machinegun

UZI Pro Sub Machinegun
UZI Pro 短機関銃



全長 540mm
(315mm)
口径 9mm×19
装弾数 20/25/32発

イギリス連邦諸国が採用していたL1A1自動小銃(FN FAL自動小銃の改良型)をベースに、L1A1では廃止されていたフルオートマチック射撃機能やヘビーバレル、ハンドガード兼用の二脚を装備した分隊支援火器モデルです。オーストラリア軍ではセミオートマチック射撃機能のみのL1A1に対して、L2A1を「オートマチックライフル(AR)」と呼称しました。L2A1にはタンジメント・サイト及びL1A1と同型のフラッシュ・サプレッサーを備えたモデルの他、L1A1と同形状のリア・サイトと銃口部に大型のリコイル・リデューサーを備えた個体も存在します。L2A1はオーストラリアのリスゴー造兵廠で製造され、ベトナム戦争中にはオーストラリア軍により使用されました。



アップバー・レシーバー左側面には「RIFLE, 7.62MM, AUTOMATIC, L2A1」のモデル名烙印が入っています。



樹脂製のロア・ブレイムや折り畳み式のフォア・グリップ、調整可能なチークレストを備えた、UZIの最新バリエーションです。本銃はマイクロUZI短機関銃をベースに開発されているため、ストックとフォア・グリップを折り畳んだ状態ではコンパクトに携行する事が可能です。また、マガジン・キャッチ・ボタンがグリップを握ったまま親指で操作できる位置に移されているのも特徴です。コッキング・ハンドルは本体左側面に設けられており、本体上部のレシーバー・カバーに備えられたピカティニー・レールには各種光学照準器の搭載が可能となっています。UZI Pro短機関銃には銃身長が170mm/210mm/240mmの3種類のバリエーションが用意されています。



チークレストはストック左側面のボタンを押すと内蔵されたスプリングにより飛び出し、5ポジションで調整可能です。

写真はすべて無装弾状態です。

軍刀

Guntō

日本陸海軍では、将校・士官が
軍刀を自費調達したため、階級や趣向に
応じた様々な仕様が存在します。
服飾品としての華美さ、
武器としての質実剛健さを備え、
実戦を経て進化していきました。



軍刀々身には太刀や打刀として作刀されたものを仕立て直したもの、陸軍が刀工に依頼して作刀させたものなどバリエーションがあります。

Tōshin

刀身



目釘穴

Mekugiana

刀身を柄に固定するための穴で、古刀を軍刀用に仕込む際には新たな目釘穴を開けることがありました。



鐔

Tsuba

鐔は時代や使用者の趣向によって様々な種類があります。



柄

Tsuka

柄の下には三連桜花の目貫が付けられています。



駐爪

Chūsō

ボタン式のロック金具で、爪部分が鞘内部に噛み合いロックします。



佩鐙

Haikan

佩用(はいよう=着用)のための金具で、刀帯(ベルト)のフックに接続して使用します。

日本陸軍

九四式

陸軍九四式軍刀拵【10037】



陸軍九四式軍刀 (銃砲刀剣類登録証付本身入、無銘、宇多)【10071】



日本陸軍

九八式

陸軍士官九八式軍刀 (銃砲刀剣類登録証付本身入、在銘：三河住持山正房藏之)【10907】



陸軍九八式軍刀 (銃砲刀剣類登録証付本身入、在銘：一文字天秀藏之)【10908】



日本陸軍

三式

陸軍三式軍刀 (銃砲刀剣類登録証付本身入、在銘：昭和二十年一月 岡住兼次作)【10900】



陸軍三式(決戦)軍刀 (銃砲刀剣類登録証付本身入、在銘：昭和十九年八月 溫州住兼藏)【0899】



日本海軍

太刀型

海軍太刀型軍刀 (昭和十二年御定海軍御式軍刀、銃砲刀剣類登録証付本身入、無銘、海軍士官刀拵付)【10055】



海軍太刀型軍刀拵 (昭和十二年御定海軍御式軍刀、無銘、海軍士官刀拵付)【10055】



American Single Shot Percussion Pistol

本品は形状的に米国で製造されたと考えられる単発の管打式拳銃で、銃身長約4インチ、.31口径のポケット・サイズモデルです。ハンマーには指掛け(スパー)が設けられており、シングル・アクションで作動します。銃身はターン・オフ・バレル (Turn-off Barrel) と呼ばれるねじ込み式で着脱可能な構造となっており、銃身を外した状態で薬室に装薬を装填し、弾頭を乗せてから銃身を取り付けて射撃を行いました。使用される弾頭の直径は口径よりも僅かに大きなものとなっており、銃口から装弾する銃器に比べてより大きな銃口初速を得る事が出来ました。南北戦争中には多くの兵士が本品のような小型の単発管打式拳銃をブーツの中に入れて携行していたとも言われています。



ねじ込み式の銃身(ターン・オフ・バレル)は容易に着脱が可能です。



American Single Shot Percussion Pistol
米国製 単発管打式拳銃



全長 185 mm
口径 7.8 mm
装弾数 単発

Double Barrel Percussion Pistol mfd. by Allen & Wheelock

米国のアレン & ウィーロック (Allen & Wheelock) 社が1850年代頃に製造した、水平二連銃身を持つ前装管打式拳銃で、銃身は銃身長約4インチの.34口径となっています。本品は2本のラウンド・バレルを束ねた形状の水平二連銃身と、各銃身に対応した2本の露出式ハンマー(撃鉄)を備えており、引金は1本のみ備えています。2本のハンマーは同時にコックする事が可能で、トリガーを軽く引くと右側、さらに深く引くと左側のハンマーが落ちる構造となっています。また、左右のハンマーはそれぞれ独立してコックし撃発する事も可能となっています。左右の撃鉄の間のフレーム上面には溝が設けられており、左右の銃身間の凹部を合わせて照準を行ったものと考えられます。



本銃は1本のトリガーのみで左右のハンマーを撃ち分ける構造となっています。



Double Barrel Percussion Pistol
mfd. by Allen & Wheelock
アレン & ウィーロック社
水平二連管打式拳銃



全長 183 mm
口径 8.6 mm
装弾数 2発

Bar Hammer Pepperbox by The Washington Arms Co.

米国ニューヨークのウィリアム・ウォーカー・マーソン(William Walker Marston)社がワシントン・アームズ社(The Washington Arms Co.)の商標で製造・販売した、6連発の管打式ベッカーボックスピストルです。本品の外観はアレン社製のベッカーボックスに類似していますが、内部構造は簡略化された生産性の高いものとなっています。作動はダブル・アクションのみで、銃身(シリンダー)後部には穴が開けられており、トリガーと連動してフレーム内部から突出するピンにより撃発時にシリンダーが意図せず回転しないように固定されます。尚、生産性を考慮してパーカッション・ニップルは取り外しのできない一体式となっています。



角棒型のハンマー支柱上面には「THE WASHINGTON ARMS CO.」の商標刻印が入っています。



Bar Hammer Pepperbox
by The Washington Arms Co.
ワシントン・アームズ
バー・ハンマー ベッカーボックス



全長 200mm
口径 8mm
装弾数 6発

French Percussion Side-by-Side Pistol

フランスで製造された、水平二連銃身を備えた管打式小型拳銃です。銃身はオクタゴン・バレルを左右に繋げたような構造の水平二連銃身で、各銃身に対してパーカッション・ニップル及びハンマーが設けられています。ハンマーはシングル・アクションにより作動し、左右のハンマーをそれぞれフル・コック位置まで起こすと、銃本体の下部からトリガーが飛び出します。尚、銃身内はライフリングのない滑腔銃身で、口径が約10.5mmと小型拳銃ながら大口徑となっている事から、至近距離での護身用として当時販売されたものと考えられます。銃口付近の左右の銃身間にはフロント・サイトが埋め込まれている他、パーカッション・ニップル後方にはVノッチ型の簡易リア・サイトが設けられています。



銃身下面には王冠と交差した羽根、3個の十字を組み合わせたサンティニ・エッソンのブルーノ刻印が打刻されています。



French Percussion
Side-by-Side Pistol
フランス製
水平二連管打式拳銃



全長 187mm
口径 10.4mm
装弾数 2発

English Bar Hammer Pepperbox

本品はグリップ下端がフラットな形状となっておりメーカー刻印等が一切見られないことから、ペッパーボックスとしては後期の1850～60年頃に製造された品であると考えられます。バー・カッション・ニップルに意図せず衝撃が加わって暴発が発生しないよう、ニップル・シールドと呼ばれるガードがフレーム前部の円周に沿って設けられています。また、シリンダー後端にセーフティ・ノッチが設けられており、携行時にはノッチにハンマー側の突起を噛み合わせておく事で、バー・カッション・ニップル同士の間にはハンマーが固定されて暴発を防止しました。本品は省力化された廉価なペッパーボックスが多い時代の品としては比較的高級なグレードであったと考えられ、植物を象った繊細な彫刻が各部に施されています。



本品のシリンダー(銃身)表面には英国バーミンガム・ブルー・ファウスのグループ刻印と種類が各銃身に対して交互に打刻されています。



English Bar Hammer
Pepperbox
英国製 バー・ハンマー
ペッパーボックス



全長 206mm
口径 9mm
装弾数 6発

Beaumont-Adams M1856 Double Action Revolver

1856年に英国陸軍に採用された.442口径(54-bore, 約11.2mm)の大型ダブル・アクション・リボルバーです。ロバート・アダムス(Robert Adams)が設計した当初のアダムス M1851 リボルバーは、ハンマーにスパー(指掛け)が無いダブル・アクション・オンリーで作動するリボルバーでしたが、1856年に英国工兵士官フレデリック・ボーモント(Frederick E.B. Beaumont)中尉がアダムス・リボルバーのダブル・アクション機構にシングル・アクション機能を追加した機構を発明し、英国及び米国でパテントを取得しました。本銃は米南北戦争時には南北両軍により大量に使用され、幕末には日本にも輸入されました。



フレーム上面にはロバート・アダムス直営店の刻印に加えて、米国におけるアダムスの代理店であった FRANCIS TOMES & SONS 社の刻印が入っています。



Beaumont-Adams M1856
Double Action Revolver
ボーモント・アダムス M1856
リボルバー



全長 302mm
口径 11mm
装弾数 5発

Tranter Single Trigger Double Action Revolver "Exhibition Grade"

英国のウィリアム・トランターは、1853年にヘジテート・アクションと呼ばれるダブル・トリガー・リボルバーに関する特許を取得し、これを製品化しました。その後、トランター社では1860年頃からボーマントのダブル・アクション機構を取り入れたオーソドックスな形状のリボルバーも製造が開始され、こちらはシングル・トリガー・モデルと呼ばれます。このシングル・トリガー・モデルではハンマーにスパー(指掛け)が設けられた他、ハーフ・コック位置が追加されました。本銃は作りが良く頑丈であった事から高い評価を受け、米国の私立探偵アラン・ピンカートンが本銃をベアで携行していたと言われています。本品は Exhibition Gradeと呼ばれる最高級の装飾が施された品です。



Tranter Single Trigger
Double Action Revolver
"Exhibition Grade"
トランター シングル・トリガー
ダブル・アクション 特別仕様品



全長 305mm
口径 11mm
装弾数 5発



フレーム左側面等にはトランター社の
パテント制印が入っています。

Enfield Pattern 1860 2 Band Rifle



本個体の銃床右側面には「明治十九 無本縣 一六〇」の
刻印が入っています。

英国のエンフィールド造兵廠で開発された前装式の施条銃(ライフルド・マスケット)です。エンフィールド小銃は原型となったP1853を基に順次改良が加えられ、様々なモデルが開発されました。英海軍は1858年にエンフィールド小銃としては初の短小銃モデルであったP1856をベースに、銃身の肉厚を増やしてライフリング条数を3条から5条に変更した他、ライフリング・ピッチを変更して命中精度を向上させた小改良モデルを採用しました。その後、英陸軍でも同様のモデルを1860年に採用しましたが、陸軍モデルではトリガー・ガードやバット・プレート、ノーズ・キャップ等が真鍮製から鉄製に変更された他、リアスライベルの位置もトリガー・ガード前方から後方に移されています。

Enfield Pattern 1860
2 Band Rifle
エンフィールド P1860
2バンド小銃



全長 1,247mm
口径 16mm
装弾数 単発



Japanese Matchlock Musket AWA Style



銃身下面には「阿波巻引 阿州石川勝之助正高」の銘が切られています。

阿波筒(阿州筒)と呼ばれる、阿州(阿波国、現在の徳島県)で製作された火縄銃です。本品の口径は阿波筒で一般的な約11mm(銃口付近で僅かに広がって約12mm)で、阿波筒らしく筒(銃身)は口径に対してかなり肉厚な作りとなっています。阿波筒では細筒から抜開筒に至るまで鉄砲のサイズにかかわらず口径は11mm前後でほぼ共通した作りとなっていました。これは藩内で使用される銃弾の口径を実戦において殺傷力を十分に確保できる11mm前後に統一する事により、弾薬補給系統の効率化を図ったものと言われています。さらに銃身長が口径に対して比較的に長めに取られている事から、比較的小口径の銃弾による長射程での狙撃を想定していた可能性も考えられます。

Japanese Matchlock Musket
AWA Style
火縄銃 阿波細筒
(在銘:阿波巻引 阿州石川勝之助正高)



全長 1,425mm
口径 12mm
装弾数 単発



Japanese Large-caliber Matchlock Gun



台木(銃床)下面には「千中 四百五十四番 御府儀」及び「改二百四番」の千中刻印が入っています。

口径19mm(十匁程度)、重量約5.1kgの中筒と呼ばれるクラスの軍用火縄銃です。軍用の中筒は一般に六匁(15.8mm)～十匁(18.7mm)前後の品が多くなっています。筒(銃身)は後方に向かって緩やかに広がった丸銃身で、上面のみ平坦となった「表一角」と呼ばれる形状となっています。銃床はカラクリの眞鍮座金に円型の金具が用いられている以外には飾り金具等は用いられておらず、装飾性を抑えた質実剛健な作りとなっています。カラクリは内カラクリ(蟹目カラクリ)で、鉄製の火挟表面に銀と思われる金属が粒状に装飾として施されています。引金に用心金は設けられておらず、引金後方の銃床下部には強度を増す為に真鍮製のナマコ金(力金)が取り付けられています。

Japanese Large-caliber
Matchlock Gun
火縄銃 中筒
(無銘、千中 四百五十四番 御府儀)



全長 655mm
口径 19mm
装弾数 単発



月刊アームズマガジン



トイガン&ミタリの最新情報誌として、読者の皆さまの課題やニーズに取り組み、さまざまな情報を発信しています。毎月27日発売

「月刊アームズマガジン」掲載品の在庫リスト

2024. 3月号	M16A1 自動小銃 (モデル613)	¥440,000
	M16A2 自動小銃	¥462,000
2月号	レミントン M700 ライフル	SOLD OUT
1月号	Vz.61 スコーピオン 短機関銃 (ブルー仕上げ)	SOLD OUT
2023.12月号	M16A1 カービン (モデル653)	¥1,210,000
11月号	ノリコ 86S 自動小銃	SOLD OUT
10月号	三八式騎兵銃	¥176,000
9月号	スミス&ウェッソン M&P15 自動小銃	SOLD OUT
8月号	ベレッタ M12 短機関銃	SOLD OUT
7月号	EA-MAS G2 (コマーシャル・モデル) 自動小銃	¥605,000
6月号	ベレッタ BM59 Mark Ital TA 自動小銃	¥297,000
5月号	FN MAG 汎用機関銃	¥1,100,000
4月号	スオミ M31 短機関銃 (前期型)	¥187,000
3月号	ロシア AKM 自動小銃	SOLD OUT
2月号	FN P90 短機関銃	SOLD OUT
1月号	K2 自動小銃	SOLD OUT

月刊ガンプロフェッショナルズ



銃・射撃の専門誌 世界の銃器・射撃、最新の銃器や海外のガン・イベントのレポートを掲載。弊社資料協力の無可動実銃の他にトイガンの魅力も紹介しています。毎月27日発売

「月刊アームズマガジン」掲載品の在庫リスト

2024. 3月号	HK SL6 自動小銃	SOLD OUT
2月号	FN SPR A1 ライフル	¥440,000
1月号	シテス スベクトラ HC 短機関銃	SOLD OUT
2023.12月号	UZI Pro 短機関銃	¥550,000
11月号	FN M1949 狙撃銃	¥1,320,000
10月号	AL.GI.MEC. AGM1 カービン	¥330,000
9月号	レミントン M870 TAC-14 ショットガン	SOLD OUT
8月号	モスバーグ M500 ブルバップ ショットガン	¥275,000
7月号	ハイ・スタンダード M10B ポリス・ショットガン	SOLD OUT
6月号	USN ウィンチェスター・リー M1895 歩兵銃	¥1,430,000
5月号	九九式短小銃 末期型 (豊和重工業製)	SOLD OUT
4月号	モーゼル Gew.71 歩兵銃	SOLD OUT
3月号	ウィンチェスター ディフェンダー 12GA ショットガン	¥187,000
2月号	イサカ M37 ショットガン	¥660,000
1月号	ブランドバース 前装弾打式騎兵銃	¥550,000

株式会社シゴレメンタルズは、毎月2誌の特集ページに商品貸し出し等の取材協力をしております。掲載商品にご希望の個体をごございましたらお気軽にお問い合わせください。



▲2023. 5月号 表紙

弊社では2009年1月号より「連載当初は「無可動実銃に見る近代小火器の足跡」として」無可動実銃を用いたシリーズが続いています。

弊社在庫品の無可動実銃を使用している中で、実際に誌面掲載された商品(同一シリアルNo.)の個体をご購入・コレクションしていただく醍醐味も味わえるかもしれません。

2023. 5月号 商品掲載ページ▶

月刊アームズマガジンの「無可動実銃ミュージアム」は、Iron Sight氏が執筆するシリーズです。毎月弊社取り扱いの無可動実銃からジャンルの異なるものを選定、誌面掲載しています。「この1挺は戦うために作られてきた本物の銃だ、の書き出しから始まる本コーナーは、無可動実銃となった現在でも「往時の魅力を失うことのない銃」に焦点を当てたものです。小道具と無可動実銃を組み合わせた美麗な写真と過不足のない解説により、ライト層からコアなマニアまで幅広く楽しめる連載となっています。

1989年から刊行されている歴史の長い雑誌で、

弊社では2009年1月号より「連載当初は「無可動実銃に見る近代小火器の足跡」として」無可動実銃を用いたシリーズが続いています。

弊社在庫品の無可動実銃を使用している中で、実際に誌面掲載された商品(同一シリアルNo.)の個体をご購入・コレクションしていただく醍醐味も味わえるかもしれません。

2023. 5月号 商品掲載ページ▶

月刊ガンプロフェッショナルズの「無可動実銃に見る20世紀の小火器」は、編集長 Satoshi Matsuo氏が執筆するシリーズです。現在までに180回以上の連載を誇り、弊社取り扱いの無可動実銃から毎月ジャンルの異なるものを選定、誌面掲載しています。

「無可動実銃に見る20世紀の小火器」は、テーマとなった銃器の開発・登場に至る過程、歴史的背景までを解説した資料的価値の高い記事です。誌面の解説も一般的な銃器解説とは一線を画しており、銃器専門誌のガンプロフェッショナルズらしい、非常にアカデミックな内容となっています。

▲2024. 1月号 表紙

本連載では「無可動実銃」として国内に存在するものをテーマとして弊社商品を特集しているため、誌面掲載された(同一シリアルNo.)の個体をご購入いただくことも可能です。

無可動実銃は歴史の一部を所有することに他なりません。茫漠とした歴史の海に現れた一挺を現代の掲載誌と併せてコレクションしてみてもいかがでしょうか。



▲2024. 1月号 商品掲載ページ



EP1



MG08/15 軽機関銃

MG08/15 Light Machinegun



基となったMG08と
比較してみました!!

帝政ドイツの
軽機関銃のバイオニア。
"歩兵と一緒に
動ける機関銃"は
こんな形で
生まれた!!

この銃のPOINT

通常分解の手順を
可能な限り
行っています!!



EP2



AL.GI.MEC.

AGM1 カービン AL.GI.MEC.
AGM1 Carbine

部品の交換で
異なる弾薬に
対応しています!!

商業的に
成功できなかった
おかげで(?)希少に
なってしまった
チャレンジングな
ブルバップ・
カービン!

この銃のPOINT

分解手順は
意外と複雑...!?



EP3



ノリンコ 86S 自動小銃

Norinco Type 86S Automatic Rifle



初見じゃ
気付けない...
意外な分解方法!!

ノリンコが56式を
ブルバップにした
意欲溢れる自動小銃!
AKを仕様変換する
アイデアがとても
興味深い!

この銃のPOINT

ブルバップらしい
改良点に注目!!



EP4



Mk19 Mod.3

オートマチック グレネード・ランチャー

Mk19 Mod.3
Automatic Grenade Launcher

ダミーカートを
用いて内部機構を
ご紹介!!

米軍の
オートマチック・
グレネードランチャー
がまさかの入荷...
紹介せずには
いられません!!

この銃のPOINT

意外な共通規格
を発見...!



様々なかたちで
イベントにも出店しています!

Chicago Regimentals

シカゴレジメンタルズ 無可動実銃



お手にとって心ゆくまで無可動実銃をご堪能いただけます。写真撮影可です。SNS映えする一枚を撮ってみてはいかがでしょうか。



Chicago Regimentals

シカゴレジメンタルズ 古式銃

要予約のシカゴギャラリーに展示されている古式銃やしかご堂の商品を出品します。しかご堂店主が番頭をしているので、直接話ができるのも魅力です。



シカゴ社長の
個人的な書店

宮崎商店

店舗では通常は販売しないトイガン、軍装品などを販売します。処分品のためマーケット・プライスを無視した価格設定で大好評を頂いております。



X シカゴレジメンタルズ公式エクス
フォローお願いします!

シカゴスタッフが様々な情報やお知らせなど毎日ツイートしています。最新情報は是非チェックしてみてください!



■ 2024年の出店・予定

2023年の北海道初出店は大盛況となり、2024年も久しぶりにシカゴレジメンタルズとして九州に出店しました! どこかの会場で皆さまとお目にかかれ、まずことを楽しみにしております。

※上記イベントの開催及び出展内容は、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

【マークの見方】

- 無可動実銃
- 古式銃&しかご堂
- 宮崎商店

1/12(金)~14(日)、
7/12(金)~14(日)

有明骨董ワールド 東京
【有明】

1/13(土)・14(日)、
4/29(月祝)、9/29(日)

ビクトリーショー 東京
【浜松町】

宮

2/10(土)・11(日)

九州ミリサバ
展示即売会
【久留米市】

宮

7/7(日)

札幌 S.G.G.M
(Survival Game Gear's Market)
【札幌】

宮

4/14(日)

伊達軍軍拡祭【仙台】

宮

4/6(土)・7(日)、12/7(土)・8(日)

ショーツショー・ジャパン 春の部・冬の部
【大阪】

宮

CHICAGO
BLOG

シカゴレジメンタルズ公式 Blog
ご好評いただいています!

銃やアクセサリなどを掘り下げて細部までご紹介しています。過去 Blog も仕入れ裏話や資料性の高い記事が多くお楽しみいただけます!



無可動実銃について

無可動実銃とは実物の銃に対して発射機能を排除する加工を海外で施し、装飾用として合法的に輸入された品です。輸入された時期によって多少の違いはありますが、下記の加工は最低限施されているのが無可動実銃の条件です。

- ・銃身内部に鉄製のインサートが銃口から薬室まで挿入されて繋がっており溶接によって抜けなくなっていること。
 - ・薬室と銃身にスリットが入っていること。
 - ・薬室は溶接によって塞がっており装填は出来ないこと。
 - ・ボルトの一部若しくは半分を除去して使用不可能にし、機関部本体に溶接で固定されていること。
 - ・引き金を除く、トリガーメカニズムの一部、若しくは全てを取り外していること。
- 平成10年以降に輸入された品はより厳しい加工が施されております。

古式銃砲について

下記の銃砲刀剣類所持等取締法第十四～十八条(抜粋)に基づき、教育委員会によって「銃砲刀剣類登録証」が交付された古式銃は合法的に所持が認められています。

第十四条 都道府県の教育委員会は、美術品若しくは骨とう品として価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録をするものとする。

- 2 銃砲又は刀剣類の所有者(所有者が明らかでない場合にあつては、現に所持する者、以下同じ)で前項の登録を受けようとするものは、文部科学省令で定める手続により、その住所の所在する都道府県の教育委員会に登録の申請をしなければならない。
- 3 第一項の登録は、登録審査委員の鑑定に基づいてしなければならない。
- 4 都道府県の教育委員会は、第一項の規定による登録をした場合においては、速やかにその旨を登録を受けた銃砲又は刀剣類の所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。
- 5 第一項の登録の方法、第三項の登録審査委員の任命及び職務、同項の鑑定の基準及び手続その他登録に関し必要な細目は、文部科学省令で定める。

(登録証)

第十五条 都道府県の教育委員会は、前条第一項の登録をする場合においては、登録証を交付しなければならない。

- 2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を所持する者は、登録証を亡失し、若しくは盗み取られ、又は登録証が滅失した場合においては、文部科学省令で定める手続により、速やかにその旨を当該登録の事務を行った都道府県の教育委員会に届け出てその再交付を受けなければならない。
- 3 登録証の様式及び再交付の手続は、文部科学省令で定める。

(登録を受けた銃砲又は刀剣類の譲受け、相続、貸付け又は保管の委託の届出等)

第十七条 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、若しくは相続により取得し、又はこれらの貸付け若しくは保管の委託をした者は、文部科学省令で定める手続により、二十日以内にその旨を当該登録の事務を行った都道府県の教育委員会に届け出なければならない。貸付け又は保管の委託をした当該銃砲又は刀剣類の返還を受けた場合においても、また同様とする。

- 2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲渡、研究、研習若しくは修理のため、又は公衆の観覧に供するため貸し付け、又は保管の委託をした場合においては、前項の規定にかかわらず、届出を要しない。
- 3 都道府県の教育委員会は、第一項の届出を受理した場合においては、速やかにその旨を当該届出に係る銃砲又は刀剣類の所有者の住所を管轄する都道府県公安委員会に通知しなければならない。

第十八条 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り渡し、貸し付け、若しくはこれらの保管を委託し、又はこれらをして運送させる者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。

- 2 登録を受けた銃砲又は刀剣類を譲り受け、借り受け、又はこれらの保管の委託を受ける者は、当該銃砲又は刀剣類の登録証とともにしなければならない。
- 3 何人も、当該銃砲又は刀剣類とともにする場合を除いては、登録証を譲り渡し、又は譲り受けはならない。



2019年4月1日より、弊社にて無可動実銃や登録証付古式銃を1挺お買い上げいただく毎に「ガゼットしおり」を1枚お渡しするキャンペーンが始まりました。(通販のお客様には商品と同梱してお送りいたします)。弊社発行のガゼットしおりに挟んでしおりとしてお使いいただくのに最適なサイズで、全18種類ございます。このガゼットしおりを合計10枚集めていただくと、弊社商品が20%OFFになる割引券としてお使いいただけます。詳しくは弊社HPメニューの「BookMark(ガゼットしおり)」をご参照ください。なお、ガゼットしおりを5枚集めると弊社商品が10%OFFになる期間限定キャンペーンも不定期で実施予定です。(実施決定時には弊社ブログにて告知させていただきます)。

ガゼットしおり割引に利用時の注意事項

- ・ガゼットしおりの譲渡・転売は無効となります。
- ※お渡しする際に、しおりの種類・枚数・お客様名を控えさせていただいております。
- ・割引サービスは、弊社に氏名・住所をご登録いただいているお客様のみなさまとさせていただきます。なお、割引サービスご利用時有効なご住所をご登録いただいていない場合は、割引サービスの適用対象外となります。転居等により、弊社に登録されているご住所が現住所が変更となっているお客様につきましては、その旨をお申し出ください。
- ・割引サービスのご利用は、弊社がしおりを発行したご本人様のお会計1回のみに限定させていただきます。
- ・割引適用商品はしおりの発行対象外となります。
- ・銃ご購入時に割引サービスをご利用される場合は、1挺にのみ適用されます。また、銃と同時にご購入されるアクセサリーにも割引が適用されます。アクセサリーは同一会計内であれば複数の種類も割引が適用されます。
- ・一部割引適用外の商品もございます。
- ・他の割引サービスとの併用はできません。
- ・複製もしくは改変、著しく汚損されたしおりはご利用いただけません。
- ・しおりの配布は、弊社にその在庫がなくなった時点で終了となります。
- ・有効期限はございません。
- ・クレジットカード及びPayPal、PayPayでのお支払いの場合は、割引サービスは適用されません。
- ・しおりのご利用条件は予告なく変更となる場合がございます。



シカゴレジメンタルスの 買取システム 3ステップ

ステップ1

まずはお電話ください。03-5818-1123

弊社よりお買い上げ頂いた品は状態が販売時と同じであれば
販売価格の最低40%を保証します。

宅配便での送品、お持ち込みどちらでもOKです。

梱包材の無い方には専用段ボール箱をお送り致します。

ステップ2

査定をさせて頂きます。

今まで弊社で査定した品のほぼ100%の高額が
成立しています。それだけ弊社の査定にはご満足
頂いております。※査定額の有効期限は1ヶ月です。

ステップ3

買取・下取前提の査定は
無料です。お気軽にお電話ください。

即日、貴方の銀行口座にお振込致します。

大量にある場合は
全国どこでも
出張買取致します。

◇買取/下取りのご案内◇

買取/下取りの品は身分証明書のコピーを頂きます。ご来店の際は、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配 郵送にて商品をお送りいただく場合は、身分証明書のコピーと買取代金の振込口座情報(名義人、銀行名、支店名、口座の種類、口座番号)を明記のうえ同封してください。

●買取について

1. 弊社よりお買い上げいただいた無可動実銃は、状態が販売時と同様であれば無条件で販売価格の最低40%を保証し、最高200%以上で買取致します。買取価格は、種類や相場相場によって変わります。お電話、メールでの大まかな査定も出来ますので、お気軽にお問い合わせください。
2. 他店から購入された品であっても、正規輸入品であれば買取可能です。他店からの購入品は現物を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額は、それを約束するものではありませんのでご了承ください。その際は購入店名(輸入業者名)をお知らせいただき、必ず身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)をご持参ください。宅配 郵送で弊社へ直接送られる方は身分証明書のコピーを同封してください。
3. アクセサリー、軍装品、書籍のみの場合は買取が出来ない場合もございますので、事前にお問い合わせください。
4. 正式査定には品を宅配便でお送りいただくか、東京、大阪店へ直接お持ち込みください。梱包材がお手元に無い方には専用段ボール箱を無料でお送り致します。尚、査定品を弊社までお送りいただく際の送料は、一旦お客様にご負担していただきますが、買取成立時に査定額と併せて送料をご返金いたします。
5. 買取が成立した後(代金の振込後)のキャンセルは出来ません。あらかじめご了承ください。

●下取りについて

1. 下取りの条件は基本的に買取りと全く同様ですが、査定を買取価格よりも10%高く評価させていただきます。ご購入予定の品によっては、さらに高く評価出来る事もありますので、ご相談ください。
2. 下取り品の代わりに購入される品が下取り品の価格より低い場合の査定は、買取価格と同等となります。
3. 下取り品の代わりに購入される品の返品は、弊社規定の返品期間内であれば他の品との交換は可能です。但し、返品してキャンセルになった場合の査定額は買取価格と同等となります。

ご来店のお客様へ

- * 弊社は世界で最も多種の小火器を展示販売している無可動実銃の専門店です。一般的な品は数多くの中からお選びいただけるように、一種類につき数銃ずつ在庫を用意していますので、ぜひご来店いただき、ご自身の目で品をお確かめください。希少価値の高い品につきましては一品物もございますので、遠方よりご来店の際は予めお電話で在庫状況をご確認ください。
- * 東京上野本店、大阪店ともに年中無休です。(お正月休みを除く)
- * 営業時間は 東京店 12:00~19:30、大阪店 12:00~20:00 です。
- * 各種クレジットカード(VISA, Mastercard, JCBとその提携カード(Amex, Dinersなど)、Nicos, Orico)を取り扱っています。(分割2回、ボーナス払いはご利用いただけません。)
- * オリコンコーポレーションの店頭即決ローン(Oricoローン)も取り扱っております。ローンをご希望の方は口座番号、銀行印と身分証明書(運転免許証、健康保険証等)をお持ちください。
- * 重機買取をお買い求めのお客様で簡易包装でのお持ち帰りを希望される方には、販売価格より1万円サービスさせていただきます。(プロニング M1919 A4機関銃など、対象外の品もありますので、お会計の前にご確認ください。)

通信販売をご利用のお客様へ

- ① お電話(TEL 03-5818-1123)、またはメール(chicago@regimentals.jp)にてご注文を受けております。
- ② 弊社HPからのご注文も承っております。まずはご希望の商品ページにある「ご注文受付はこちら」から「ご注文フォーム」をご送信ください。
シカゴレジメンタルス <http://www.regimentals.jp>
- ③ ご注文受付後、在庫を確認した上で折り返し弊社よりご連絡致します。なお、無可動実銃の送料は弊社でサービスさせていただきます。
- ④ お支払い方法は下記の通りです。ご入金またはご送金いただいた場合は、確認の為に必ずお電話またはメールにて東京上野本店まで早急にお知らせください。
(送品業務を円滑にするともに事故を防ぐためにも宜しく願います。)
- ⑤ ご注文いただいた品が店頭在庫としてある場合は、ご送金・ご入金確認後、または決済完了後に宅配便にて発送致します。

◆銀行送金の場合

三井住友銀行 江坂支店 普通口座296764 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス
ゆうちょ銀行 記号10130 番号87425981 名義人 株式会社シカゴレジメンタルス

◆クロネコヤマト コレトサービス(代金引き換え)の場合

- 14:00までにご注文を頂ければ一部地域を除き翌日配達が可能です。
- * 返品の場合は送料の他に代引手数料も負担いただきますのでご了承ください。
- (注)銀行へお振込みいただいた後も15:00を過ぎると翌日入金となることもありまので、その場合は翌日発送となります。

★通信販売の送料・代引手数料について (2024年7月1日改定)

- * ご購入金額が3万円(税込)以上の場合は、送料・手数料ともにサービスさせていただきます。
- * ご購入金額が3万円(税込)未満の場合は、1,000円の送料をご負担いただいております。
また、コレトサービス(代金引き換え)の場合は、送料1,000円+代引手数料500円=合計1,500円をご負担ください。

◆クレジットカード(メール決済)の場合

在庫確認後にお送りするクレジットカード決済用メールの内容をご確認の上、決済手続きをお願いします。

◆PayPalでお支払いの場合

在庫確認後にお送りするPayPal決済用メールの内容をご確認の上、PayPal決済手続きをお願いします。

◆Oricoローンをご利用の場合

通信販売でもOricoローンをご利用いただけます。簡単な手続きで分割払いが可能です。また金利もクレジットカードより低くお得です。(分割回数は、Webオリコが3回~60回、専用紙記入によるお申し込みが6回~60回となります。)

◆現金書留の場合

〒110-0005 東京都台東区上野1-12-7 (The シカゴビル)
株式会社シカゴレジメンタルス TEL 03-5818-1123

- * 弊社取り扱いの商品は書籍とスコップを除き全て返品が可能です。通信販売でも安心してご購入いただけます。もし商品にご満足いただけない場合は、商品を受け取ってから7日以内にご連絡の上、ご返金ください。お送りいただいた金額より送料、各種手数料(代引き手数料・振込手数料など)を差し引いた金額を返金致します。(但し、良品での返品は通常の回数でお願い致します。)

●ご不明な点がありましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

古式銃の買取り、下取りについての流れ

◇まずはご確認ください◇

1. 各都道府県教育委員会が発行した「銃砲刀剣類登録証」が付いた合法的に所持ができる古式銃のみを買取り致します。

「銃砲刀剣類登録証」がない古式銃(例えどのように古いタイプの銃であっても)の買取りはできません。

「銃砲刀剣類登録証」を紛失された方は「再交付」、新しく発見された古式銃については「発見届」から「登録審査」までのアドバイスを致します。「再交付」もしくは「登録」の保証するものではありません。

*「銃砲刀剣類登録証」が交付されてから弊社で買取りを行います。

*明治以降の品(真正拳銃に該当する物)につきましては、古くても古式銃とは見なされませんので、上記説明に沿うことはできません。

銃砲刀剣類の登録証サンプル



昭和34年交付

昭和48年交付

平成2年交付

◇ご注意ください◇

2. 稀に「銃砲刀剣類登録証」が付いていても、古式銃現物と「登録証」が一致しない場合もあります。この場合は教育委員会での「再審査」が必要となります。古式銃現物と登録証が一致しているかご確認ください。

◇お問い合わせください◇

3. 買取り可能な登録証付き古式銃であれば、お電話またはメールで、銃名(モデル名)、登録情報、購入金額、購入時期、商品のコンディション(作動するか否か、欠品がないか)、付属品の有無、買取り希望金額をお伝えいただければ、大まかな査定が出来ます。

また、火縄銃の場合はモデル名などがないので、写真など査定判断が出来るものをお送りください。

まずはお気軽にお問い合わせください。

◇査定いたします◇

4. 古式銃の現物と登録証を確認した後に正式な査定となります。お電話での査定額は、それを約束または保証するものではありませんので、ご了承ください。

正式査定には品を宅配便等でお送りいただくか、東京、大阪店へ直接お持ち込みください。

ここから先の流れにつきましては、前ページの「無可動実銃の買取り/下取りのご案内」をご覧ください。

*古式銃の付属品のみのお買取りは基本的には出来ませんが、品によっては可能な場合もありますのでお問い合わせください。ただし、銃と一緒に付属品(特にオリジナル木箱など)を買取りに出される場合はプラス評価をさせていただきます。

*古式銃現物と登録証は必ず一緒にお送りください。

●ご不明な点がございましたら東京上野本店までお気軽にお問い合わせください。

無可動実銃

買取保証

40%

買取り価格は販売価格の最低 **40%** を保証! ※1※2



国内唯一の専門店が当社の強み!!

買取・下取

購入店で売るが楽!!

下取保証

50%

下取り価格は販売価格の最低 **50%** を保証! ※1※2

※1 弊社よりお買い上げいただいた無可動実銃の状態が販売時と同様であれば、無条件で上記の保証率以上で買取り/下取り保証いたします。詳しくは本誌 P.105 をご覧ください。

※2 販売価格は税抜価格での計算となります。